

# 管理者ガイド



# **viewLinc 3.6** バイサラ ベリテック viewLinc ソフトウェア



M211342JA-A

#### 著作権

著作権 ® 2011 Vaisala Canada Inc. 版権所有。

Vaisala Canada Inc. の書面での明示された許可なしで商用目的での本文書の全部 あるいは一部の複写、配布、出版、変更、あるいは編入を行うことは許可されません。

Vaisala Canada Inc. 13775 Commerce Parkway Richmond, BC V6V 2V4 Canada

#### 商標

Vaisala Canada Inc、バイサラ ベリテック、バイサラ ベリテック vLog、バイ サラ ベリテック viewLinc、およびバイサラ ベリテック Spectrum は Vaisala Canada Inc の登録商標です。

Windows は Microsoft Corporation の登録商標です。

すべてのその他の各商標は、それらの各自所有者の所有物です。

#### 免責および責任の制限

Vaisala Canada Inc およびその各関連会社は、本マニュアルの使用から派生す るいかなる損害あるいは損失について一切責任を負いません。

Vaisala Canada Inc およびその各関連会社は、本ソフトウェアの使用で潜在的に 発生する可能性もある各サード パーティーによるいかなる損失あるいは請求につ いて一切責任を負いません。Vaisala Canada Inc およびその各関連会社は、ハー ドウェア誤動作の結果としてのデータの削除による起因するいかなる損害あるい は損失について一切責任を負いません。データ損失を防止するためにすべての重要 データの各バックアップ コピーの作成を徹底されるようお願いいたします。

Vaisala Canada Inc は、バイサラ ベリテック データ ロガー、バイサラ 300 シ リーズ送信機、またはソフトウェア、その市販性、あるいはその特定目的への適合 性に関連して明示されるか、あるいは包含されるかのいずれにおいても一切保証を 行いません。この包含される各保証項目の除外は、いくつかの州によって許可され ていません。かような場合には、この除外はお客様に適用されない場合もあります。 Vaisala Veriteq は、さまざまなネットワーク システムを使用して試験されてい ます。しかしながら、可能であるハードウェアおよびネットワークの各構成の膨 大な組み合わせの数は、それぞれの状況下での試験を不可能にしています。パイ サラ ベリテック viewLinc ソフトウェアを使用しての問題がある場合には、 Vaisala Canada Inc にご連絡ください。

#### 技術サポート

北米地域においての技術サポートについては、1-866-861-3388 にお電話いただく か、または北米地域以外のお客様については、「第章:始める前に」、ページ 1をご 参照ください。

電子メール veriteqsupport@vaisala.com 文書管理番号: M211342JA-A 発効日付: April 2011



このマニュアルについて	. v
このマニュアルの対象者	v
このマニュアルの構成方法	V
この文書内で使用される表記方法	. vi
関連文書およびソフトウェア製品	. vi
サポート情報	. vi
第章:始める前に	. 1
viewLinc システムの概説	. 2
システム要件	. 5
viewLinc のインストール	. 7
ロガーの接続	. 7
Spectrum ソフトウェアまたは vLog	
ソフトウェアのインストール	12
viewLinc ソフトウェアのインストール	13
ViewLinc へのログイン	15
管理者向けロード マップ	17
ヘルプの表示	18
第章:チャネル	19
チャネルについて	20
チャネルとは何ですか?	20
「マイ チャネル」はどこにあるのですか?	20
チャネル画面を理解する	21
ラージ チャネル ビューを開く	23
タリアルタイムのグラフ	24
コンジャント ユンシンシン	25
ラージチャネル ビュー内でのグラフ	20
詳細の表示	26
ラージ チャネル ビューからのアラームの受信確	認
27	
チャネルのゾーン内への整理	28
ゾーンの作成	28
ゾーンの編集	28

ゾーンへのチャネルの割り当て	. 29
ゾーンの非アクティブ化	. 31
チャネル カラムの整理	. 31
チャネル カラムの非表示および表示	. 32
第章:アラーム	33
アラームについて	34
アラームがトリガーされると何が起きるのです	ታ?
35	-
アラーム テンプレートの作成	36
しきい値アラーム	42
しきい値アラームの設定	. 42
しきい値アラームの編集	. 44
しきい値アラームの無効化	. 44
しきい値アラームの非アクティブ化および再アグ	ク
ティブ化	. 45
通信アラーム	45
通信アラームの設定	. 46
通信アラームの編集	. 47
	. 48
	49
ロガー アラームの設定	. 49
ロガー アラームの編集	. 49
ロガー アラームの無効化	. 50
アラームの受信確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	50
アラームの一時停止	51
第章:システム設定	53
ロガー検出	54
ロガーの追加	54
ロガーの切り替え	56
ロガーの削除	58
ロガーのプロパティおよびエイリアスの編集	59
チャネル プロパティおよびエイリアスの編集	60

電子メール設定の構成	61
アラーム電子メール テンプレートの編集	63
ユーザーとの作業	64
コンタクト スケジュール の作成	65
ユーザー アカウントの作成	67
ユーザーおよびパスワードの編集	69
ユーザーの非アクティブ化	69
ユーザーの再アクティブ化	69
ロガーおよびチャネル説明長の選択 (エイリマス)	60
(エイジノス)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	70
一位の後光境日の送水······ セッション右効期限の設定	70
	70
电」 ノール 市争 前 悔 成 角 の コ グ ノ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	/ 1
第章:イベント	75
イベントの表示	76
イベントへのコメントの追加	77
イベント ログの印刷	77
「イベント ログ」のエクスポート	78
第章:レポート	79
履歴データについて	80
履歴データ レポートの生成	80
アラーム履歴レポートの生成	80
チャネル履歴レポートの生成	82
新しいレポートの作成	85
レポートの削除	86
第章: 転送	87
転送および転送スケジュール	88
転送スケジュールの作成	88
即時データ転送の実行	90
転送スケジュールの編集	90
転送スケジュールの非アクティブ化	91

	転送スケジュールの一時的な無効化	91
補遺: FAQ 8	ムトラブルシューティング	93
索引		05

## このマニュアルについて

このviewLinc 3.6『管理者ガイド』には viewLinc システムをインス トール、構成および操作するために必要な情報が含まれています。 『クイック スタート ガイド』を viewLinc をインストールするため のグラフィカルな概説として参照することも可能です。「管理者」で ない場合、viewLinc を使用して実行する標準的なタスクに関する 情報については『ユーザー ガイド』を参照してください。

#### このマニュアルの対象者

このマニュアルは、エンド ユーザーがネットワークにわたってロ ガーの読み取りデータを表示し、ロガーのデータを監視することを 可能にするための viewLinc サーバー ソフトウェアおよびその関 連するコンポーネントをインストールおよび構成する管理者向け のものです。このマニュアルは、管理者へのしきい値アラームの設 定、電子メールアラーム通知の構成、チャネルの構成、レポートの 定義、およびロガー データ転送スケジュールの設定方法等を含んで いるいくつかのトピックを取り扱っています。

#### このマニュアルの構成方法

この viewLinc 3.6 『管理者ガイド』以下の章に構成されています:

第章:始める前に.viewLinc 概説、ハードウェアおよびソフトウェ ア要件、必須のインストレーション指示事項、ログイン方法を含ん でいます。

第章:チャネル。チャネルの機能説明、「マイ チャネル」の使用方法、 ラージ チャネル ビューの開き方、およびゾーン内へのチャネルの整 理方法を取り扱っています。この章では、一般的な viewLinc ユー ザーおよび管理者の両者に関連したトピックを扱っています。

第章:アラーム。しきい値の超過またはロガーとシステム間のデー タ通信が機能していない場合のシステムを監視して通知するための アラームの作成、編集、非有効化、および一時停止するうえでの情 報を含んでいます。アラームの受信確認方法を含んでいます。

第章:システム設定。管理者向けの特定の情報が含まれており、ユー ザー アカウントの作成、パスワード ポリシーの設定、アラーム用の 電子メール サーバーの構成、表示する温度単位の選択、および「マ イ チャネル」内に表示されるロガーの選択と表示方法の変更等が含 まれています。 第章:イベント。イベント ログのフィルターおよび印刷の方法を含んでおり、転送、アラーム、および受信確認での詳細が含まれています。

第章:レポート。履歴データの定義、そのデータの活用方法、レポー トの生成を含んでいます。

第章:転送。vLog または Spectrum ソフトウェアを使用した分析 用の PC へのバイサラ ベリテックロガー データの転送方法につい ての情報を含んでいます。

補遺: FAQ & トラブルシューティング。一般的なトラブルシュー ティングの質問に回答しており、viewLinc サービスの停止および 開始方法、viewLinc と共にインストールされている機能、および 一般的な問題のトラブルシューティングの方法が含まれています。

#### この文書内で使用される表記方法

この文書は以下の表記方法を使用しています:

- ・ 垂直な線で区切って表示されている操作の配列。例:
   『viewLinc で、[システム] | [ロガー] と選択します。
- 「メニュー」の選択肢で選択したアイテム、およびボタンの名前 が太字で表示されます。

#### 関連文書およびソフトウェア製品

viewLinc でヘルプには、『viewLinc クイック スタート ガイド』を ご参照ください。

データ ロガーの設定およびロガー履歴データのグラフまたはテキ ストファイルとしての表示と印刷方法については、バイサラ ベリ テック Spectrum ソフトウェアまたは vLog ソフトウェアおよび これらに関連した『クイック スタート ガイド』をご利用ください。 Us300 シリーズ送信機のインストールについては、『バイサラ 300 シリーズ送信機ユーザー ガイド』をご利用ください。

#### サポート情報

北米地域において、無償の技術サポートが米国太平洋標準時、 午前8時~午後4時、月曜日~金曜日にてご利用可能です。 1-866-861-3388 (または604-273-6850)(米国内電話番号)。ま たveriteqsupport@vaisala.com 宛に電子メールしていただく か、または www.vaisala.com/veriteq にてご参照ください。 セールス、価格設定、お見積り、または一般的情報についてのお問い 合わせは、+1-800-683-8374 (北米地域無料通話番号)、または +1-604-273-6850 (米国内電話番号)までご連絡お願いいたします。 北米地域以外についてのサポートについては、「第章:始める前に」、 ページ 1をご参照ください。

# 第章:始める前に

本セクションに含まれている項目:

- viewLinc バイサラ ベリテック継続的監視システム (CMS)
- ハードウェアおよびソフトウェアの要件
- viewLinc のインストール
- 状態を監視するにはインターネット ブラウザーから viewLinc にログインする
- 管理者向けロード マップ

# viewLinc システムの概説

ようこそ viewLinc 3.6 へ。viewLinc を使用することで、サポート されているバージョンの Microsoft® Internet Explorer® または Mozilla® Firefox® インターネット・ブラウザーを使用してネット ワーク経由で Veriteq データ ロガー読み取り値をローカルで簡単 に監視することが可能です。

viewLinc 3.6 で可能な各機能:

- ローカルまたはリモート PC から複数データ ロガーからのリモー ト状態の監視
- グラフィック形式でのリアルタイム データの表示
- 履歴データの生成およびアラーム レポート
- モニター中の状態が準拠外であるかまたはネットワーク通信の
   問題が発生している場合での、可視化アラームまたは電子メール・アラームの受信
- アラームがトリガー、受信確認されたか、またはロガー通信問題が発生中である場合に、文書化済みロガーイベントを自動的に解析
- バイサラ ベリテック ロガー データ (「履歴データ」としても参照される)の バイサラ ベリテック Spectrum または vLog ソフトウェアと併用して表示およびグラフ化するための転送をスケジュール
- 稼働している各ロガーまたは各ゾーンを容易に識別
- データ監査経路を中断しない校正または交換目的でのロガーの 切り替え
- アラーム通知用の事前構成済みのコメントの作成
- 再利用可能なアラーム テンプレートの作成

インストールされると、viewLinc バイサラ ベリテック CMS は、 各ソフトウェア コンポーネント (viewLinc を含む)、および各ハー ドウェア コンポーネント (データ ロガー、サポート済みのインター ネット ブラウザーを持つ PC、および各ロガーの PC への接続形式 に基づくいくつかのケーブルなど、バイサラ ベリテック vNet また は Digi ネットワーク デバイスを含む) で構成されています。 ご利用の PC にどのように使用するロガーが接続されるのかは非 常に重要な管理上の決断です。4 つの方法があり、これらは特定の ハードウェアを必要とします。最も便利な方法は、vNet または Degi デバイスを接続している PC に各ロガーを接続する方法で す。これらのオプションは、表1で説明されています。

方法	接続の形式	詳細
vNet デバイス	イーサネット	<ul> <li>イーサネット ネットワー クを経由した PC への データ ロガーの接続を可 能にし、設備内での長距 離での PC と各ロガーの 分離を可能にします</li> <li>vNet ドライバーのインス トールが必要となります (提供済み)</li> <li>vNet デバイスの使用が必 要となります</li> </ul>
Digi デバイス	イーサネット	<ul> <li>イーサネットネットワークを経由した PC へのデータ ロガーの接続を可能にし、設備内での長距離での PC と各ロガーの分離を可能にします</li> <li>Digi ドライバーのインストールが必要となります(提供済み)</li> <li>Digi デバイスの使用が必要となります</li> </ul>

表 1: ロガーの PC への接続方法

方法	接続の形式	詳細
USB ポート	バイサラ ベリ テック USB ケーブル	<ul> <li>各データロガーの直接でのまたはイーサネットネットワーク(ロガーホストがインストールされている場合)を経由してのviewLincサーバーへの接続を可能にします</li> <li>USBドライバー(提供済み)のインストールが必要となり、1台のPC上で1つのUSB接続を使用します</li> <li>1つのUSBボートからロガーケーブルに接続されます</li> </ul>
シリアル ポート	バイサラ ベリ テック シリア ル ポート ケー ブル	<ul> <li>各データロガーの直接でのまたはイーサネットネットワーク(ロガーホストがインストールされている場合)を経由してのviewLincサーバーへの接続を可能にします</li> <li>1台のPC上で1つのシリアルポートが必要となります</li> <li>1つのシリアルポートからロガーケーブルに接続されます</li> </ul>

表 1: ロガーの PC への接続方法

ご使用のシステムで必要とされる場合、これらの方法を組み合わせた使用もまた可能です。

この概要システム要件はすべてのインストール オプションに適用 されます。

# システム要件

viewLinc のインストールで必要な要件:

- バイサラ ベリテック データ ロガーまたは バイサラ 300 シリーズ送信機 (本ガイドおよび viewLinc において両者は「ロガー」として参照されます)。
- PC (以下本文書内で viewLinc サーバーとして参照されます)
- バイサラ ベリテック ケーブル (各ロガーの Digi デバイスへの 接続あるいは各ロガーの viewLinc サーバー上の USB またはシ リアル ポートへの接続にはそれぞれ特殊なケーブルが存在して います)
- (オプション) vNet デバイス、イーサネット接続を使用した各 ロガーの viewLinc サーバーへの接続用です
- (オプション) Digi デバイス、イーサネット接続を使用した各ロ ガーの viewLinc サーバーへの接続用です

#### viewLinc サーバー要件

この viewLinc サーバー PC は、以下の各要件を満足する必要があ ります:

- 1日 24 時間、1週間7日間利用可能であること。
- 350 MB の空きアプリケーション ディスク領域があること。
- 以下のうちの1つのオペレーティングシステムを使用している こと:
  - Microsoft<sup>®</sup> Windows XP
  - Microsoft® Windows 7 または Windows Server 2008 (32 または 64 ビット バージョン)
  - インストレーションの規模に応じてその他のオペレーティン グシステムが利用できます
- If viewLinc サーバー コンピューターからの viewLinc のご使用を 計画されている場合、サポートされるインストール済みのイン ターネット ブラウザー、(Microsoft® Internet Explorer® 6.0 ま たはそれ以降、Mozilla® Firefox® 3.5 またはそれ以降が推奨さ れています)が必要です。
- 本履歴データベースは、200KB/チャネル/日が要求されます。
   本データベースのデフォルトの場所は、アプリケーション フォルダであり、このアプリケーション フォルダの場所はインストールの際に指定することが可能です。

ご使用されるチャネル数に依存して、viewLinc サーバー コン ピューターもまた以下の要件を満足しなければなりません:

ラージ サイズ インストレーション (300 ~ 1000 チャネル)

- 一台の専用コンピューター
- 3.2 GHz、クアッド コア
- 4 GB RAM

200KB/チャネル/日をサポートする十分な HDD 領域
 例:400 チャネルをご使用の場合、通年でおおよそ 30GB (400x200x365)の領域が必要となります。

ミディアム サイズ インストレーション (20~ 299 チャネル)

- ご使用のコンピューターはその他のアプリケーションとの共用も 可能です
- 1.6 GHz デュアル コア
- 4 GB RAM

200KB/チャネル/日をサポートする十分な HDD 領域
 例:40 チャネルをご使用の場合、通年でおおよそ 3GB (40x200x365)の領域が必要となります。

スモール インストレーション (<20 チャネル)

- 1.6 GHz
- 2 GB RAM
- 200KB/チャネル/日をサポートする十分な HDD 領域
   例:4 チャネルをご使用の場合、通年でおおよそ 300MB (4x200x365)の領域が必要となります。

エンド ユーザー PC 要件

viewLinc の管理に使用されるネットワーク上のコンピューターの 要件:

- 2.4 GHz
- 2 GB RAM
- サポートされるインターネット ブラウザーがインストール済み であること (Microsoft Internet Explorer 6.0 またはそれ以降の バージョン、Mozilla Firefox 3.5 またはそれ以降のバージョン が推奨されています)。

# viewLinc のインストール

本セクションでは、ロガーがシステムに接続される 4 つの方法の説 明を含む、viewLinc のサーバー上またはリモート ホスト上へのイン ストール方法を概説しています。4 つの方法とは:

- vNet デバイスを使用しての各ロガーのネットワークへの接続
- Digi デバイスを使用しての各ロガーのネットワークへの接続
- USB ポートを使用しての各ロガーの viewLinc サーバーまたは リモート ホストへの接続
- シリアルポートを使用しての各ロガーの viewLinc サーバーまたはリモートホストへの接続

300 シリーズ送信機ロガーを接続されようとする場合、これらはワ イヤレスでか、または Digi デバイスの使用してかのいずれかで接 続されます。詳細については、ご使用のバイサラ製品ユーザーガイ ドをご参照ください。

viewLinc のインストールの詳細なグラフィック表示については、 関連する『バイサラ クイック スタート ガイド』をご参照ください。 これらの vNet または Digi デバイスを使用するものおよびこれら の USB/シリアル ポートを使用するものには異なるバージョンが 存在しています。『クイック スタート ガイド』の入手につきまして は、www.vaisala.com/veriteq を参照されるかまたは最寄りの代理 店までご連絡ください。

#### ロガーの接続

ご使用のロガーをネットワークまたは適切な PC へ接続するため の方法を以下から選択してください。

### 方法 1: vNet デバイスの使用

以下の手順は、vNet デバイスを使用してご使用の各データ ロガーを ネットワークに接続するための方法を示しています。



図 1: vNet デバイスを使用する viewLinc システムの概説

メイン ハードウェアの接続

- 1 データ ロガー下部にある保護ラベルを取り除きます。
- 2 データ ロガーを vNet デバイスに接続します。
- 3 vNet デバイスをイーサネット接続口に接続して、(PoE 電力供給未対応の場合は)電源に接続します。電源が vNet デバイスに接続されている場合、赤色 LED ライトが7~8 秒間点滅してから、連続点灯に移行します。ネットワーク接続が確立されている場合、この赤色 LNK LED が点灯され連続点灯して、時折緑色 ACT LED が点滅します。
  - 注意: 確実な接続を確保するには、電源の樽状コネク ターを本デバイスに挿入して、右側に 1/4 回転 させて確実にロックさせます。ご使用のネット ワークが Power Over Ethernet (イーサネット 経由での電源供給)をサポートしている場合、 電源を接続する必要はありません。

vNet デバイスのインストールについての詳細は、『vNet ユーザー ガイド』をご参照ください。

バイサラ ベリテック ドライバーのインストール

本セクションは、イーサネット接続を使用して各バイサラ ベリテック ロガーをネットワークに接続するための vNet デバイス用ドライバー のインストールを取り扱っています。ご使用されたい各 vNet デバイ スについてこれらのステップのすべてを繰り返してください。

vNet デバイスの検出

- 1 担当の IT 部門からご使用の vNet デバイス用に予約済み IP アドレス(推奨されています)または固定 IP アドレスを取得し てください。使用されるネットワークのポリシーが、DHCP を 使用する IP アドレスの予約を必要する場合、各指示は www.vaisala.com/veriteq をご参照ください。
- 2 vNet デバイス ドライバー CD を該当の viewLinc サーバーに 挿入します。
- デバイス セットアップ ウィザードが自動的に起動されます。
   [次へ]をクリックしてください。
- 4 ご使用の vNet デバイスの側面に表示されている MAC アドレ スに一致するデバイスを選択してから、[次へ]をクリックして ください。
  - 注意: ご使用のデバイスが該当のサーバーと異なったサ ブネットマスク上にある場合、その vNet デバイ スの IP アドレスを知る必要があり、ベリテック vNet デバイス ドライバー CD 上の RealPort フォルダから RealPortSetup.exe インストー ラーを起動する必要があります。

RealPort の構成およびドライバーのインストール

- 「ネットワーク設定の構成」画面で、静的 IP アドレス(担当の IT 部門により提供済み)を入力してください。[次へ]を2回 クリックしてください。
- 2 「RealPort 設定」 画面にて、 [このコンピューター上に RealPort をインストールする] をクリックしてから、 [次へ] をクリックします。
- 3 [次へ]をもう一度クリックしてください。この設定が保存されます。
- 4 [完了]をクリックします。

[バイサラ ベリテック ドライバーをインストールする] を各 vNet デバイスごとに繰り返してください。

#### 方法 2: Digi デバイスの使用

以下の手順は、ご使用の Digi デバイスを使用してご使用のデータ ロガーをネットワークに接続するための方法を示しています。



図 2: Digi デバイスを使用する viewLinc システムの概説

#### メイン ハードウェアの接続

- Vaisala Veriteq ケーブルを使用して使用するデータ ロガーを Digi デバイスに接続します。
- 使用する Digi デバイスを電源およびイーサネット接続口に接続します。
  - 注意: これらの指示は Digi One SP モデルを対象と しています。その他の Digi モデルについては、 www.vaisala.com/veriteq をご参照ください。

Digi ドライバーのインストール

この章ではイーサネット接続を使用してネットワークにバイサラ ベリテック ロガーまたはバイサラ 300 シリーズ送信機 を接続す るための Digi デバイス用のドライバーのインストールを取り扱っ ています。ご使用になられる各 Digi デバイスについてこれらのス テップのすべてを繰り返してください。

Digi デバイスの検出

 担当の IT 部門からご使用の Digi デバイス用に予約済み IP アドレス(推奨されています)または固定 IP アドレスを取得 してください。使用されるネットワークのポリシーが、DHCP を使用する IP アドレスの予約を必要する場合、各指示は www.vaisala.com/veriteq をご参照ください。

- 2 Digi ドライバー CD を viewLinc サーバーに挿入します。
- 3 Digi デバイス セットアップ ウィザードが自動的に起動されま す。[次へ]をクリックしてください。
- 4 ご使用の Digi デバイスの底面に記載されている MAC アドレ スに一致するデバイスを選択してください。[次へ]をクリック してください。
  - 注意: ご使用のデバイスが該当のサーバーと異なった サブネット上にある場合、その Digi デパイスの IP アドレスを知る必要があり、Digi ドライバー CD 上の RealPort インストラーを起動する必 要があります。

RealPort の構成およびドライバーのインストール

- 1 「ネットワーク設定の構成」画面で、静的 IP アドレス(担当の IT 部門により提供済み)を入力してください。.[次へ]を2回 クリックしてください。
- 2 「RealPort 設定の構成」画面にて、[このコンピューター上に Digi RealPort をインストールする]をクリックしてください。 [次へ]をクリックしてください。
- 3 [次へ]をもう一度クリックしてください。この設定が保存され ます。
- 4 [完了]をクリックします。

**Digi** ドライバーのインストールを各 Digi デバイスで繰り返してください。

#### 方法 3: USB ポートの使用

図 3 に示されるように、USB ポートを使用して各データ ロガーを 直接それぞれの PC に接続することも可能です。



図 3: ロガーを接続するために USB ポートを使用する viewLinc システムの概説

USB ドライバーのインストール

- ▶ 提供済みのバイサラ ベリテック USB ケーブル ドライ バー CD および『クイック スタート ガイド』を使用して、 ロガーを接続しようとする PC 上に USB ドライバーを インストールします。
- ハードウェアの接続
- このデータ ロガーをバイサラ ベリテック USB ケーブルに接続します。
- 2 このUSB ケーブルを使用する viewLinc サーバーまたはロ ガー ホストへ接続してください (viewLinc サーバー コン ピューターがご利用のネットワークに接続されていることを 確実にしてください)。
- 3 USB ケーブル ドライバーをインストールします。ロガー(複数)が接続されている各コンピューター上で1回のみインストールする必要があります。

#### 方法 4: シリアル ポートの使用

シリアル ポートを使用して各 PC に各データ ロガーを接続すること も可能です。シリアル ポートを使用しての構成は、USB ポートを使 用した場合と非常に似ています、図3 をご参照ください。

#### ハードウェアの接続

- ご使用のデータ ロガーをバイサラ ベリテック シリアル ポート ケーブルに接続します。
- 2 シリアル ポート ケーブルを使用する viewLinc サーバーまたは ロガー ホスト に接続します (このコンピューターがご利用の ネットワークに接続されていることを確実にしてください)。

これらのステップをすべてのデータ ロガーで繰り返します。

# Spectrum ソフトウェアまたは vLog ソフトウェアのインストール

 一旦、ご使用の各データ ロガーがインストールされると、Spectrum ソフトウェアまたは vLog ソフトウェアのいずれかをインストール するための準備が完了します。 注意: 300 シリーズ送信機をご使用の場合、Spectrum

ソフトウェアまたは vLog ソフトウェアのイン

ストールは要求されません。

非検証可能環境用への Spectrum のインストール,または vLog (または検証可能環境)のインストールは以下を可能にします:

- サンプル間隔の設定
- チャネルの有効化または無効化
- ロガーの指定およびチャネルの説明
- バックアップ目的での履歴データの格納

各バイサラ ベリテック ロガーが接続されているすべての PC 上に Spectrum ソフトウェアまたは vLog ソフトウェアをインストール することが推奨されています。

インストールの指示項目については、『ベリテック Spectrum ユー ザー ガイド』または『vLog ユーザー ガイド』をご参照ください。

### viewLinc ソフトウェアのインストール

これでご利用のネットワーク上でのデータ ロガーの監視、アラーム およびレポートを実行するために使用される viewLinc をインス トールするための準備が完了しました。2 つのオプションがご利用 可能です:

- ネットワーク サーバー上への viewLinc ソフトウェアのインストール (1 度はインストールされる必要があります)。
- 1個のオフサイトホストがそれに接続されている各ロガーを viewLinc サーバーに利用可能とするために1台のPC上に viewLinc ソフトウェアをインストールする。

viewLinc サーバー上に viewLinc をインストールする方法:

- ご使用の viewLinc サーバー上で、viewLinc CD を挿入して、 setup.exe を実行します。
- **2** インストール言語を選択してください。
- 3 [次へ]をクリックしてセットアップウィザードを開始してく ださい。
- 4 『ライセンス契約』を参照され、これを承諾して、[次へ]をク リックしてください。
- 5 viewLinc プログラム ファイルおよびデータベースの格納先を 選択して、[次へ]をクリックしてください。
- 6 [Enterprise Server]を選択して、[次へ]をクリックしてください。

- 7 以前のバージョンの viewLinc からアップグレードを実行中で あり、ご使用されていた旧バージョンの viewLinc 内で使用さ れた各設定を保持されたい場合には、[設定のインポート]をク リックしてください。
- 8 viewLinc サーバーは、通信用に 1 つの開いている TCP ポートを必要とします。インストーラーは、ポート 80 を既定します、ポート 80 が占有されている場合にはインストーラーは新しいポート番号を提供します。このポート番号を記録してください これは viewLinc にログインされる時に必要となります。[次へ]をクリックしてください。
- 9 [インストール]をクリックしてください。
- 10 [完了]をクリックします。

USB ケーブルまたはシリアル ケーブルを使用して、追加のコンピュー ターをリモート ホストとしてセットアップすることが可能です。

viewLinc をオフサイト ホスト PC 上にインストールするには:

- 1 viewLinc CD を挿入して、setup.exe を実行します。
- 2 インストール言語を選択してください。
- [次へ]をクリックしてセットアップウィザードを開始してく ださい。
- 4 『ライセンス契約』を参照され、これを承諾して、[次へ]をク リックしてください。
- 5 viewLinc プログラム ファイルの格納先を選択して、[次へ] を クリックしてください。
- 6 [ロガーホスト]を選択してから、[次へ]をクリックしてください。
- 7 [インストール]をクリックしてください。
- 8 [完了]をクリックします。

すべての必要な viewLinc コンポーネントがインストールされまし た。これでネットワーク上のあるあらゆるコンピューターに移動し たり - またはご希望の場所に固定したりすることが可能となり - ま たあらゆるサポート済みのインターネット ブラウザを使用して各 チャネルの監視をするための viewLinc へのログインが可能となり ました。

# ViewLinc へのログイン

viewLinc が可能とする機能:

- ロガーにより記録されている状態および viewLinc 履歴データベー ス内に記録されている状態の監視 (温度および相対湿度など)。
- 条件が既定の設定の範囲外であるか、または通信障害が発生しているかしている場合のアラームの受信
- その他のシステム-関連アラームの受信

アラームの設定、電子メールの設定、およびロガー データ転送のス ケジュール設定などの、viewLinc の使用準備が完了したら、サポー ト済みのインターネット ブラウザーから viewLinc へ してくださ い。サポートされるインターネット ブラウザーは、Microsoft Internet Explorer 6.0 またはそれ以降、または Mozilla Firefox 3.5 またはそれ以降を含んでいます。

デフォルトでは、viewLinc がインストールされる時に1つの管理者 アカウントが作成されます。そのユーザー名およびパスワードは、両 方とも「admin」です。無許可のアクセスを防止するためにできる だけ速やかにこの管理者パスワードを変更されるようお願いします (「ユーザーおよびパスワードの編集」、ページ 69を参照)

viewLinc へのログイン方法:

- 1 デスクトップ上のアイコンをダブルクリックします 🚻
- 2 または、サポート済みのインターネット ブラウザーのアドレス ボックス内に、viewLinc がインストールされているコンピュー ターの名前または IP アドレス、およびそのポート番号を入力 してください。例: http://computername:portnumber (何も ポート番号が指定されない場合、ポート番号 80 (:80) がデフォ ルトで使用されます)。
- 3 ログイン画面に、ご使用のユーザー名およびパスワードを入力 してください。【ログイン】をクリックしてください。

	ViewLine ic H 2	1240
ユーザー名:	admin	
パスワード:		
		ログイン

注意: ここでのデフォルトの管理者ユーザー名および パスワードは両方とも「admin」です。 4 メイン viewLinc 画面が現れて、利用可能なチャネル、または (当初にログインされた場合)空白の「マイ チャネル」画面が 表示されます。

								RESTORATION AND	10703-F888
FIRE NO. 1103	SAPA   79-	L (P 7 7	CONCISION NO.	d-1					
V-2		- 194	5+83						
2.078 875-	an-means in	1. 21	or Chan Harne						
44.	F124	24	105-088.	112444	F121088		8413827		しまいきかりアリー
ABURTRA			Onernal 11	1	fargerature.	21-00-0	West Tab. 18, 19 (19 (2) 11 (2) 11	04	
		-12	Onernal 11		numetry	25.0.80	West Falls 18,15 (4) (1,2011	04	
		1.00	cours.	1	Temperature .	24.46-0	Water Fully 18, 18, 18, 49, 19, 2011	0.6-83	
		10	cowes.	1	comp.4	26.46.0	West Tale 18 15 44 15 (811	0.0-82	
		15	10/1008-081101-05		Rectar Longity	10.47	West Page 18, 10 and 10 (2011)	04	202224444
		12	10/1008-081107-08		Non-Apply Pressor	1.04	West Tel: 10 10 10 10 2011	08	
		11	HAPTON-OFFICIAL		Maria Rata	B.T.eth	West Test 10, 10, 10, 10, 2011	OK .	
Image: Section 1         Image: Section 1         Image: Section 1           Image: Section 1         Image: Section 1         Image: Section 1         Image: Section 1           Image: Section 1         Image: Section 1         Image: Section 1         Image: Section 1         Image: Section 1           Image: Section 1         Image: Section 1         Image: Section 1         Image: Section 1         Image: Section 1           Image: Section 1         Image: Section 1         Image: Section 1         Image: Section 1         Image: Section 1	ATTO GOVERNMENT								
2 Temperature 0	CANE I	100							
2 West Majour Pressure 14	WTED-DEVELOP	801							
E ong i 0	10M50 1	84) - E							

チャネル データが何も見られない場合には、[チャネル]タブ に移動してください。「ゾーン」エリア内で、リストからチャ ネルを選択して、2[更新]をクリックしてください。ここで 選択済みのチャネルのデータが表示されるようになります。

何もチャネルが表示されない場合、ご使用のデータ ロガーが適 切に接続されていない可能性があり、ご利用になるチャネルが 割り当てられていない場合か、または viewLinc 自体に障害が 発生しているかの可能性があります。バイサラ ベリテック データ ロガーを使用して、ロガーの検出を試行する場合、以下 を参照してください 「ロガー検出」、ページ 54

注意: 担当の管理者が、システム セキュリティ確保の 目的でご使用のパスワードを確認するためのダ イアログを定期的に表示させるよう設定してい る場合もあります。ダイアログが表示された場 合、ご使用のパスワードを再入力してください。 変更したり、またはセッション有効期限を設定す るには、「セッション有効期限の設定」、ペー ジ70

チャネルに関する詳細については、第章:チャネルをご参照ください。

# 管理者向けロード マップ

一旦、ご使用の viewLinc システムがインストールされたなら、以下に示されるロード マップが viewLinc を実装するために要求されるセットアップおよび構成作業の概説として有用となることでしょう。

- バイサラベリテック ロガー プロパティを vLog または Spectrum (サンプル間隔およびデータ ロガー チャネルなど)を使用して 編集する。300 シリーズ送信機プロパティの編集については、 ご使用のバイサラ製品の『ユーザー ガイド』をご参照ください。
- 2 特定のユーザーがアラームで通知される際の日および時刻の スケジュールを設定されようとしている場合は、[コンタクト スケジュール]を設定してください(「コンタクト スケジュー ルの作成」、ページ 65 をご参照ください)。
- 3 ユーザー アカウントの作成 (「ユーザー アカウントの作成」、 ページ 67 をご参照ください)。
- 4 温度測定単位の優先項目を選択してください(「温度測定単位 の優先項目の選択」、ページ70をご参照ください)。
- 5 電子メール設定を構成してください (「電子メール設定の構 成 、ページ 61 をご参照ください)
- 6 アラーム電子メールテンプレートを編集してください(「アラーム 電子メールテンプレートの編集」、ページ 63をご参照ください)。
- 7 アラーム テンプレートおよびしきい値テンプレートを作成してください (「アラームテンプレートの作成」、ページ 36 をご参照ください)。
- 8 ロガーを追加するには、(「ロガーの追加」、ページ 54 をご参照ください)。
- 9 アラームしきい値を設定および構成してください (「しきい値 アラーム」、ページ 42をご参照ください)。
- 10 アラームを構成してください (第章: アラーム にてしきい値、 通信およびロガー アラームの設定をご参照ください)。
- 11 各ゾーンを作成し、各ゾーンヘチャネルを割り当て、および チャネル プロパティを編集してください(「チャネルのゾーン 内への整理」、ページ28をご参照ください)。

ー旦、これらのセット アップ作業が完了したら、ロガー読み取りの 監視、各イベントの表示および各レポートの印刷の開始の準備が完 了します。vLog ソフトウェアまたは Spectrum ソフトウェア内で バイサラ ベリテック ロガー データを表示および分析するために転 送スケジュールを設定することも可能です (「転送および転送スケ ジュール」、ページ 88をご参照ください)。

# ヘルプの表示

サポートを必要とされる場合は、技術サポートがご利用可能です:

北米

Vaisala Canada Inc.、午前8時~午後4時太平洋標準時間月曜日 ~金曜日、+1-866-861-3388 (または+1-604-273-6850) (いずれも 現地電話番号) または電子メール veriteqsupport@vaisala.com まで ご連絡お願いいたします。www.vaisala.com/veriteq もあわせてご参 照ください。

セールス、価格設定、お見積り、または一般的情報についてのお問い合わせは、+1-800-683-8374 (または +1-604-273-6850)(米国 電話番号)までご連絡お願いいたします。

北米以外:

helpdesk@vaisala.com

```
バイサラ本社 (フィンランド)
```

Vanha Nurmij 舐 ventie 21 01670 Vantaa FINLAND Industrial Instruments 電話: +358 9 8949 2658 ファックス: +358 9 8949 2295

日本サービス センター 東京都 新宿区 神楽坂6丁目42 郵便番号 162-0825 電話: 03 3266 9611 ファックス: 03 3266 9610

中国サービス センター 中国 北京市 朝陽区 東三環北路宵雲路21号、 郵便番号 100027 電話: +86 10 5827 4100 ファックス: +86 10 8526 1155

# 第章:チャネル

本セクションは管理者および一般ユーザー向けです。 このセクションにおいての学習事項:

- チャネルおよびゾーン
- •「マイチャネル」内の表示のためのチャネルおよびゾーンの選択
- ラージチャネルビューを開く
- ラージ チャネル ビュー内でのリアルタイム グラフの表示および作業
- ゾーンの作成
- チャネルのゾーン内への整理
- ゾーンの編集
- ゾーンの無効化
- チャネル情報の表示または非表示

viewLinc 内でのチャネルの取り扱いについて学習を始めます。

# チャネルについて

#### チャネルとは何ですか?

インストールされた バイサラ データ ロガーに依存して、1 つのロ ガーが温度、相対湿度、電圧および/あるいは電流の測定に利用可 能な5 つのチャネルを所有しています (1 つのチャネルが各測定の タイプに使用されます)。

注意: 300 シリーズ送信機出力の数がチャネルとして 表示されます。

各チャネルは、測定中であるデータのタイプを表示しています。 viewLinc を使用して、そのネットワークに接続されているあらゆ るデータ ロガー チャネルを監視することができます。

最初に viewLinc にログインされると、チャネル ウィンドウが表示 されます。このウィンドウで表示される各項目:

- 監視用に利用可能なゾーン
- 選択済みゾーン用に利用可能なデータ ロガー チャネル
- アクティブな監視チャネルおよび実際のチャネルデータ
- しきい値インジケータ
- 状況に応じたヘルプ

#### 「マイチャネル」はどこにあるのですか?

「マイチャネル」エリア内に何もチャネルが見つからない場合、以下の原因が考えられます:

- 選択済みのゾーンまたはチャネルが存在していない。「ゾーン」エリア内で、少なくとも1つのチャネルまたはゾーンがその側のチェックボックスで選択済みであることを確実にしてから、「マイチャネル」エリア内の 2 [更新]をクリックしてください。
- ご使用のロガーが適切に接続されていない可能性があります。
- バイサラ ベリテック ロガーを使用して、ロガーの検出を試行する場合 「ロガー検出」、ページ 54 をご参照ください。

#### チャネル画面を理解する

viewLinc内の「チャネル」画面には多くの重要な機能が含まれています:



アイテム	詳細
タブ	メイン viewLinc タブに含まれる項目 : チャネ ル、転送、イベント、システム アラーム、 アラーム、レポート。
「ゾーン」 ボタン バー	[更新]、[アラームの一時停止]、その他な どを含んでいます。
「ゾーン」 エリア	ゾーンの構成が行われる場所です。各ゾーンを 使用して viewLinc に接続されている可能性のあ る多くのチャネルを整理します。
利用可能な 「ゾーン」 チャネル	1 つの選択済みゾーン用に利用可能なデータ ロガー チャネルの一覧。
「マイ チャネル」 エリア	チャネル構成の詳細、現在のデータ読み取り 値、直近のタイムスタンプおよびしきい値ア ラーム設定情報が含まれています。

表 2:「チャネル」画面の重要な要素

「マイ チャネル」は、ご使用の各ロガーおよび各チャネルの一般的 情報を表示しています。ほとんどのカラムはすぐご理解いただける と思いますが、viewLincの理解を深めるためのいくつかの定義項 目を説明します。すべてのオプションを表示するには、「チャネル カラムの非表示および表示」、ページ 32 をご参照ください。

カラム	表示項目
ゾーン	ゾーンに整理されているチャネルが含 まれているチャネルです。
ロガーの説明	ロガーの説明 ([ システム ] タブから編 集可能 )。
チャネル番号	目的とするロガーを代表する番号 ( 各 ロガーは 1 つ以上のチャネルを保有し ていおり、これらを 1、2 というよう にラベルを付けています )。
チャネルの説明	チャネルの説明 ([ システム ] タブから 編集可能 )。
値	目的とするチャネルの値、例 : 摂氏表 示での温度。
タイムスタンプ	直近のチャネル読み取りが実行された 時刻
状態	現在アクティブなアラームが存在しな い時、[OK] が現れます。1 つのしきい 値アラーム条件またはあらゆるそのほ かのアラームが検出されている場合を 表示するために変化します。
しきい値のサマリー	しきい値状態のサマリー、アクティブ な場合
アラームの実行	このチャネルまたはロガーが現在ア ラームを発生させているのかどうかを 表示します (1 つのアラームしきい値に 到達している状態)。

表 3:「マイチャネル」内の各カラムの情報

## ラージ チャネル ビューを開く

このウィンドウには、このチャネルの直近のデータ読み取り値、あ らゆる関連したしきい値設定、最近の履歴データのグラフィカル表 示、および1つのアクティブなアラームを表示するための1つの エリアが含まれています。

注意: 単一のウインドウ内で1つの特定のチャネルを 表示するか、または複数のチャネルウインドウを 開くことが可能です。Internet Explorer をご使 用の場合には、新しいウィンドウまたはタブ内 で新しいリンクを開くように設定されているこ とを確実にしてください。[ツール]|[インター ネットオプション]と移動してから、[全般]タ ブ上のタブ セクションで、[設定]をクリック して、「他のプログラムのリンクを開く方法:」 で[現在のウインドウの新しいタブ]を選択し ます。

ラージ チャネル ビューを開く方法:

- 1 「マイチャネル」エリア内の[チャネル]タブから、表示したい チャネルを選択してください。
- 2 Q[表示]または選択済みのチャネルのラインをダブルクリックします。

選択済みのチャネルについての情報を含んでいる新しいサイズ 変更可能なウィンドウが現れます。



3 複数のラージ チャネル ビューを表示するにはステップ1および2を繰り返します。

ラージ チャネル ビュー を閉じるには、そのウィンドウの上部右隅 にある [閉じる] ボックスをクリックします。

1 つのアラームを受信確認するには、「アラームの受信確認」、ページ 50 をご参照ください。

# 各リアルタイムのグラフ

viewLinc では、いつでもライブ データをグラフィカルに表示可能 です。各グラフは最後の 300 または 1000 のデータ ポイント (ロ ガーに設定されたサンプル取得間隔およびご使用のインターネット ブラウザーに依存します)、および対応する時間間隔のしきい値を表 示しています。

つのグラフとしてライブ データを表示する方法:

- [チャネル]タブから、「マイチャネル」エリア内で、表示したい
   1つのチャネルを選択してください。
- 2 [表示]をクリックします(またはその選択済みのチャネルのラインをダブルクリック)。これでそのラージチャネルビューが開かれます。

この画面内で、直近の履歴傾向を表示することができ、より詳細な 読み取り値を特定のポイント上でマウス ポインターをポイントす ることで表示させます。

# ラージチャネル ビューでのグラフの読み取り

1 つのチャネルを開いている場合、そのロガー読み取りの数値表示 およびグラフィカル表示の両方の読み取りが可能です。以下はこの グラフ描画エリア内の主要な要素の説明です:

アイテム	説明
タイトル バー	アクティブなロガーの名前およびデー タ読み取りのタイプ (湿度、温度、電 圧または電流)を表示します。
ヘッダー バー	直近の読み取りの日付および時刻を表 示します、ここでのタイム ゾーンはこ のブラウザーが実行されている PC の タイム ゾーン設定に依存します。
数値表示エリア	ユーザーにより定義済みの単位で、直 近のデータ値を表示します(変更するに は「温度測定単位の優先項目の選択」 ページ 70 ページをご参照ください)。
グラフ エリア	データ履歴のグラフィカル表示がここ に表示されます。
左側 Y- 軸	このグラフ内で表示されるデータのス ケールを表示します。
X- 軸 時間のスケール	レポート時間フレームを表示します (Internet Explorer 6.0 をご使用の場合に は、最後の 300 データ ポイントのみが 表示されます、すべてのその他のブラ ウザは最後の 1000 ポイントを表示し ます)。
チャネルのライン	特定の日付または時間フレームに 基づく履歴測定読み取り値を表示 する1つのラインにより示されます。 特定のポイント上にマウスポイン ターをポイントして、X-軸および Y-軸の数値を表示することができます。

表 4: ラージ チャネル ビューの各要素

アイテム	説明
しきい値ライン	履歴しきい値を表示する色付きのライン により表示されます(しきい値設定に 基づきます)。マウスを移動しながら、 特定のX-軸およびY-軸の数値を表示 するために特定のポイント上でマウス ポインターをポイントさせます。
アクティブなアラーム エリア	アクティブなアラームの詳細の表示:し きい値とその超過した量、アラーム日 付および時刻、該当するアラームの受 信確認状態、およびその確認したユー ザー。ユーザーが1つのアラームを受 信確認することを許可します。
状態バー	チャネル監視状態を示します (OK また はアラーム条件タイプ )。

表 4: ラージ チャネル ビューの各要素

# ラージ チャネル ビュー内でのグラフ

#### 詳細の表示

ラージ チャネル ビュー が開かれていると、特定の時間間隔での拡 大も可能です。

そのグラフ上のいずれかの場所をクリックして、カーソルを右側に ドラッグして拡大したい時間間隔を反転表示させて、リリースしま す。この拡大済みエリア表示は次回のライブ更新まで表示されます。 直ちにフル ビューに復帰するには、このグラフ上の任意の場所をダ ブルクリックしてください(また拡大するには、1つのエリアを選 択肢、左にカーソルをドラッグしてから、リリースします)。


# ラージ チャネル ビューからのアラームの

#### 受信確認

ラージ チャネル ビュー ウィンドウから、アラームを受信確認でき ます。

- ラージ チャネル ビューからのアラームの受信確認の方法:
- ラージ チャネル ビューの「アクティブなアラーム」パネルから、
   ●[受信確認]をクリックします。
- 2 現れた [アラームの受信確認] ダイアログ ボックス内に、現在のアラーム状況の修正のために実行された操作を説明する情報を入力するか、または一般的なコメントを入力するかしてください。
- 3 [受信確認]をクリックしてください。

### チャネルのゾーン内への整理

ご使用の viewLinc 画面を整理して、重要な各チャネルの監視に注 力するために、ご使用の各チャネルを関連した各ゾーン内に整理す ることが可能です。

デフォルトでは、1 つのゾーンが作成され、「未割当て」となりま す。すべての利用可能なチャネルおよび最近切断されたチャネル が、構成が行われるまでこのゾーン内に含まれたままとなります。

#### ゾーンの作成

つの新しいゾーンの作成方法:

- 1 「ゾーン」エリア内の[チャネル]タブから、➡[新しいゾーンの 作成]をクリックします。
- 2 ゾーン名]ダイアログボックス内に、このゾーンの名前を入力します。[

7-24			3
1-281	入力してくださ	h.	
New Zone	1		

 [OK] をクリックします。この「ゾーン」エリア内に新しいゾーン が「未割当」の下に現れます。

名前 🔺	チャネル
未割り当て済み	7
新しいゾーン	0

#### ゾーンの編集

ゾーンの編集方法 (そのゾーン名のみ):

- 1 この「ゾーン」エリア内の[チャネル]タブから、編集したい ゾーンを反転表示させてください。
- 2 📝 [編集] をクリックします。

- 3 [ゾーン名]ダイアログボックス内で変更を行います。
- 4 [OK] をクリックします。

各ゾーンの編集は、そのゾーン名を編集するのみだけです、これは その内部の割り当て済みの各チャネルを変更するものではありま せん。ゾーンへのおよびゾーンからのチャネルの移動方法について は、「ゾーンへのチャネルの割り当て」、ページ 29をご参照ください。

#### ゾーンへのチャネルの割り当て

チャネルをゾーンへ割り当てる方法:

- 1 各チャネルを 1 個のゾーン内に移動する前に、各チャネルは担当の viewLinc 管理者によりセットアップされている必要があります。ご使用のバイサラ ベリテック ロガーまたは 300 シリーズ送信機上での各ロガー チャネルの有効化および無効化についての詳細は、特定の『ユーザー ガイド』をご参照ください。
- 2 「ゾーン」エリア内の[チャネル]タブから、1つのチャネルを 割り当るためのゾーンが作成してあることを確実にしてくだ さい。各チャネルを割り当てるためには、少なくとも1つの ゾーンが作成済みである必要があります(デフォルトで作成さ れた「未割当」のゾーンに追加して)。
- 3 「ゾーン」エリア内で、再割り当てしたいチャネルが含まれる ゾーンを反転表示させます(この場合、「未割当」のゾーン)。
- 4 「ゾーン未割当チャネル」エリア(「ゾーン」エリア下部)内で、 再割り当てしたいチャネルを反転表示させます。
  - 注意: 一度に複数のチャネルを選択するには、各チャネ ルの選択時に [Ctrl] キーを押したままにしま す。一覧内のチャネルのグループを選択するに は、[Shift] キーを押しながらその最初のチャネ ルと最後のチャネルを選択します。

5 👍 [切り取り] をクリックします。

47 33				
各相印	*	チャイ	2 5-3-	- 24
未割	リ当て済み	7	アクラ	F 4 7
新し	いシーシ	0	アクラ	-1.
			).	4 4
く ノーン 3月	/ 未割り当て済み チャネ		)・	<   ►
く> 到 = マイ	★割り当て済み チャネ と 切り取り  説明	ル 脳が付け マ すべて	● □ = = = = ○ ●	<   ► ] g.
	× 未割り当て済み チャネ └─────────────────────────────────── 説明 ^ Absolute Humid このソ	ル 貼り付け	を選択する 📄 マネルを切り取	<   ► ] ਰ X
	× 未割り当て済み チャネ ビー ● 切り取り ● 説明 → Absolute Humid る Humidity	ル 貼り付け 「 すべて 「ーナ」 のM au 「ーンから選択されたチ Channel 11	を選択する 📄 ヤネルを切り取 04082123	<   ► ] ح ک
マイ マイ マ	・未割り当て済み チャネ にー 。切り取り 説明 - Absolute Humid Humidity Mixing Ratio	ル おり付け 「 すべて ーンから選択されたチ Channel 11 HMT330-G0110125	を選択する マネルを切り取 04082123 G0110125	<   ► ] उ र
	・未割り当て済み チャネ ビー 参切り取り 首 説明 - Absolute Humid る Humidity Mixing Ratio Temperature	ル AD 11 マ すべて コーナー 今時間 ーンから選択されたチ Channel 11 HMT330-G0110125 Channel 11	を選択する マネルを切り取 04082123 G0110125 04082123	<   ► ] ਭਾ- X
	・未割り当て済み チャネ ビー 一参切り取り 前 説明 Absolute Humid Jumidity Mixing Ratio Temperature Temperature	ル A00付け 回すべて ーンから選択されたチ Channel 11 HMT330-G0110125 Channel 11 COM45	を選択する やネルを切り車 04082123 G0110125 04082123 08121313	ৰ।► ] ज
	★割り当て済み チャネ ○ ● 切り取り ● 説明 → Absolute Humid Humidity Mixing Ratio Temperature Temperature Water Vapour Pressure	ル はの付け 「 すべて 一大 の 気沢された子 Channel 11 HMT330-G0110125 Channel 11 COM45 HMT330-G0110125	を選択する マネルを切り可 04082123 G0110125 04082123 08121313 G0110125	<   ► ] ਰ X

- 6 「ゾーン」エリア内で、チャネルを再割り当てしたいゾーンの 名前を反転表示させます (この場合は、「Lab 1」となります)。
- 7 「ゾーン未割当チャネル」エリア内で、 [1] [貼り付け] をクリックします。このチャネルがこれを貼り付けたゾーン内に現れなければなりません。使用するチャネルの移動先ゾーンを選択す

名前 -	チャネル	アラーム
未初リヨで済み	7	アクティブ
新しいゾーン	0	アフティブ
C		
(ーーン 新しいソーン チャネ)	b.	

る必要がある場合もありますが、あるいは ♂[更新]をクリックして結果を表示させることもできます。

#### ゾーンの非アクティブ化

1 つのゾーンを非アクティブ化する場合、これら各チャネルがその 他のゾーン内に含まれていない場合、これらの各チャネルはデフォ ルト「ゾーン」、「未割当」に戻されます。

- ゾーンの非アクティブ化の方法:
- 1 その「ゾーン」エリア内の[チャネル]タブから、非アクティブ 化したいゾーンを選択してください。「未割当」のゾーンは非 アクティブ化できないということにご留意ください。
- 2 送[選択済みゾーンの非アクティブ化]をクリックします。[ゾーンの非アクティブ化]ダイアログボックスが現れます。



3 [はい]をクリックします。このゾーンが非アクティブ化され、 その(各)チャネルは「未割当」ゾーン内に再び現れます。

各ゾーン間で各チャネルを移動させるには、「ゾーンへのチャネル の割り当て 」、ページ 29 をご参照ください。

#### チャネル カラムの整理

「マイ チャネル」内での表示順序の再並び替え方法:

- 「マイ チャネル」エリア内の [チャネル] タブから、黒色の [オ プション] ボタンが現れるまでいずれかのカラム ヘッダー上に てマウス ポインターをポイントさせます。
- 2 このボタンをクリックして、[昇順で並べ替え]または[降順で 並べ替え]を選択するか、または目的とするカラムを利用して いずれかのカラム ヘッダー上をクリックすることですべての 行を並び替えするかします。逆の順で一覧の再並び替えするに はもう一度クリックしてください。

### チャネル カラムの非表示および表示

「マイチャネル」内でのカラム非表示の方法:

 「マイ チャネル」エリア内の [チャネル] タブから、いずれかの カラム ヘッダーの上にてマウス ポインターをポイントさせて から、黒色の [オプション] ボタンをクリックします。

会↓ 昇順 A↓ 降順		
カラム 🕨		アイコン
		ゾーン
		ロガー ID
		ロガー シリアル番号
		ロガー COM ポート
		デバイス
	<b>V</b>	ロガーの説明
		チャネル ID
	<b>V</b>	チャネル番号
	<b>V</b>	チャネルの説明

2 [カラム]を選択してから、表示したいカラムを選択するか、または非表示にしたいカラムの選択を解除します。例:アラーム状態を表示する色付きアイコンを持ったカラムを表示するには、[アイコン]をクリックします。



3 その一覧の外側をクリックするか、または [Esc] を押してその オプションの一覧を非表示にします。

ここではチャネルがどのように機能するかを見てきました - これ からはどのように 構成、トリガー、および アラームの受信確認 を 実行するのかを見ていきます。

# 第章:アラーム

アラームおよびアラーム受信確認は、バイサラ ベリテック継続的監 視システムでの成功へのカギの 1 つです。

この章においての学習事項:

- viewLinc 内でのアラームのタイプの理解
- アラーム テンプレートの作成
- しきい値および通信アラームの設定
- アラームの非アクティブ化および再アクティブ化
- アラームの受信確認
- アラームの一時停止

アラーム レポートの生成方法について学習するには、以下をご参照 ください第章:レポート。

アラームの取り扱いについての学習を始めます。

## アラームについて

「フルコントロールを持つユーザー」、「アラームの構成」、および「カ スタム化しきい値の構成」のアクセス許可でアラーム制限値を設定 可能であり、諸条件がこれらの制限値を超過した時、該当条件の主 要な職員に通知するアラームがトリガーされます。「アラームの受信 確認」のアクセス許可またはそれを超えるアクセス許可を持つ職員 が、それに続いて viewLinc でアラームの受信確認を実行します。 すべての処理は「イベントログ」および「履歴データベース」内に

「すべての処理は「イベント ロク」および「履歴テータベース」内に 記録されています。

viewLinc 内のいくつかのアラームの種類: しきい値アラーム、通信 アラーム、イベント ログ検証アラーム、およびロガー サンプリング アラーム。検証可能なロガーを使用されている場合には、ロガー検 証アラームおよび校正アラームをも受信することとなります。

viewLinc を使用して、[システム] | [ロガー] タブから構成すること で、しきい値、通信およびロガー アラーム用に発行されるアラーム 情報のカスタム化が可能です。

しきい値アラーム

しきい値アラームは、諸条件(温度および相対湿度など)が許容制限 値を逸脱した時にユーザーに通知するものです。

デフォルトではしきい値アラームは有効化されていません。特定の しきい値が超過した場合にしきい値アラームをトリガーするには、 割り当て済みのアクセス許可を持つユーザーがこれらを構成する必 要があります。

#### 通信アラーム

通信アラームは、1 つのホスト (ロガー ホストまたは viewLinc サー バー) および該当するデータ ロガー間での通信が停止した時にユー ザーに通知するものです。これは viewLinc サーバーが該当するロ ガーと通信できないか、または該当するデータ ロガーの1 つのホス トへの接続が切断されていることが考えられます。通信アラームは、 viewLinc の監視およびアラーム実行を中断する問題がある場合に 警告を発するシステム健全テストとしても機能しています。

#### イベント ログ検証アラーム

1 つの「イベント ログ検証」アラームは、viewLinc イベント ログ 履歴データが変更されているか、または改ざんされているかしてお りもはや検証可能ではないことを示しています。

#### ロガー構成アラーム

「構成アラーム」を受信した場合、これは、ご使用のデータロガーが データ履歴の記録を停止しているか、または正しくなく構成された ことを示しています。これは、データ満杯でのシステム停止の結果、 遅延した開始、または該当のロガーに1つの内部エラーがある可能 性があります。このアラームは、Spectrum または vLog ソフトウェ アを使用して該当のロガー内で1つのチャネルが無効化された場合 にトリガーされることも可能です。この問題の修正には、vLog ソフ トウェアを使用して該当するバイサラ ベリテック データ ロガー設 定を検証または変更することができます。この問題が解決しない場 合には、担当のバイサラ技術担当者に連絡してください。

#### ロガー検証アラーム

VL-タイプのデータ ロガーをご使用の場合は、該当ロガー内の検証 メモリが破損したか、または変更されてしまった場合に「検証アラー ム」を受信するようになります。担当のバイサラ技術サポート担当 者にご連絡ください。

#### ロガー校正アラーム

VL-タイプのデータ ロガーをご使用の場合は、ご使用のデータ ロ ガーが校正時期である場合に断続的な通知を送信します。受信する 通知の時間間隔:校正日に先立ち3か月および1か月前、それから 該当のデータ ロガーのスケジュール済み校正日に再度。このアラー ムは、該当のロガーが再校正されるまでアクティプに保持されるよ うになります。

### アラームがトリガーされると何が起きるの ですか?

アラームがトリガーされた場合の発生事項:

- ポップアップが現れて、該当条件の説明を表示し、1つのアラームメッセージを表示します。ご使用のブラウザーでポップアップがブロックされる場合には、1つのエラーメッセージが現れて、viewLinc用のポップアップを有効化するようにとのダイアログが表示されます。
- 1 通の電子メールを送信可能です。構成済みである場合、しきい 値制限値を超過した、通信が中断された、または1つのイベン トログまたはロガーアラーム条件が存在している場合に、該当 する(複数の)指定済みの電子メールアドレスに自動的に電子 メールを送信することができます。アラーム電子メールは、ア ラームプロパティの設定方法に従って繰り返し送信することが 可能です。

- 1つのアプリケーションを起動するか、1つの外部デバイスをオン にすることが可能です。構成済みである場合、1つの外部デバイス (ライトまたはブザーなど)または1つのコンピューター アプリ ケーション(特定の電話番号へのメッセージ送信または電話発信を 可能にするバッチ ファイルなど)が1つのアラーム条件の発生し たときにトリガー可能です。
- 上記のすべて。ご自身でツリー アラーム階層を設定することも 可能です、これは指定された時間フレーム以内に最初の通知が受 信確認されなかった場合に別の個人に通知を行う方法です。

アラームは viewLinc 内で受信確認されるべきであり、その状況はで きるだけ速やかに処置される必要があります。 すべての処理は「イ ベント ログ」 および「履歴データベース」 内に記録されており、「イ ベント ログ」 または「アラーム レポート」 内で表示させることがで きます。

## アラーム テンプレートの作成

viewLinc は、5 つのデフォルトのアラーム テンプレート提供してお り、それぞれがしきい値アラーム、通信アラーム、および 3 つのタ イプのロガー アラーム (校正、検証および校正)となっています。. 必要に応じてこれらのテンプレートのパラメータを変更するか、ま た独自のものを作成することが可能です。

複数のロガー チャネル用に同様なアラーム設定を定義する場合に時 間を節約する優れた方法です (通知およびコメントはもちろん、一般 的なパラメータに適用可能 - 色コード、アラーム メッセージ、遅延、 受信確認 )。

また 1 つの再利用可能なしきい値条件を作成して、指定するアラー ム テンプレートに割り当てることも可能です (「つのしきい値条件 テンプレートの作成の方法: 」ページ 41 を参照)。

つのアラーム テンプレートの作成方法:

1 [アラーム]|[アラーム テンプレート] から、 📲 [アラーム テン

#### プレートの追加】をクリックします。

アクティブなアラーム <b>アラームテンプレート</b> しきい信テンプレート ② 更新 ■ 保存 ◎ アラームテンプレートを追加する 無いに完善性な容素素 新しいアラーム アンプレートを登成する (75)	
② 更新 → 保存 ③ アラーム テンプレートを追加する 数以记录器物業書類 ■ ELいアラーム テンプレートを完成する //57	
取以記录器校准書稿 (3) 新しいアラーム テンプレートを作成する パラ	
一般 レジア フーム ナメノレートをひほうの	ラメーター金穀 近知 コメント
默认论泉藤配置警报	
默认记录器检证管报 色二	0-K:
默认通信要报 アラ	ラーム メッセージ:
取以成金額指 アラ 第43	ラームをアクティブ化する前に遅延させる (h

- 2 デフォルトで、このアラーム テンプレート名は、「新しいア ラーム テンプレート」です。このタイトル内をクリックして より多くの特定タイトルを入力します。
- 3 [一般的パラメータ]タブ上の定義項目:
  - a 色コード。アラーム色コードを選択します 以下のいずれ かとなります 青色、黄色、オレンジ色、または赤色。この 色が、[アラーム]タブ上でのアラーム用に色インジケー ターとして使用され、アクティブ化された場合、「マイチャ ネル」内の1つの行への背景色として使用されます。これ はリアルタイムグラフ内の1つのしきい値ライン用の色と しても使用されます。低い深刻さアラーム用の低い青色か ら開始して、最も深刻なアラーム用の赤色へとエスカレー トさせて、この色を重要度を表示するために使用するよう にします。
    - b アラーム メッセージ。1 つのアラーム電子メール通知を設定されたい場合([通知]タブ上での設定)、このアラーム通知内に現したいメッセージを入力してください。
    - C アラームをアクティブ化する前に遅延させる (HH:MM)。希望される場合は、遅延間隔をこの条件が存在してこのアラームをトリガーさせたい時間から、時間および/または分にて指定してください。
    - d 受信確認が必要です。このオプションを選択するのは、1つのアラームの受信確認をさせる1人の個人が必要な場合です。このオプションを選択する場合は、そのアラームが受信確認されるまで[アラーム]タブ上で保持されるようになります。
- 4 このアラームがポップアップ ウインドウを開くようにしたい 場合:
  - a [通知] タブを選択。
  - **b** [追加]をクリックしてから、[ポップアップ通知の追加]を 選択します。

103	ラメーター全般 遺知 コメント	1
4	2016) 💥 - DCB	
	電子メール通知を追加する	
Φ	コマンド通知を追加する	
Ð	ポップアップ通知を追加する	

c [遅延]内で、ポップアップフィールドの前に、そのポッ プアップが表示したい前の遅延時間を、時間および/または 分(H:MM)で指定します。この遅延時間は[一般]タブでの 遅延が終了してから開始されます。

- 注意: この機能は慎重にご使用になることを推奨して います。同時に多数のポップアップがトリガー された場合には、ご使用のブラウザー動作が中 止され、修正のためにご使用のブラウザーを再 起動することが必要となる場合もあります。
- 5 アラームがトリガーした時に1通の電子メール通知を送信す る方法:
  - a [通知の選択] タブを選択。
  - b 🗣 [追加]をクリックしてから、[電子メール通知の追加]を 選択します。

() an <b>X</b> en		
Email の通知	最初の通知を送信する前に遅延させる (Mumm):	
	01-00	
	電子メールを以下へ送信する:	
	ユーザーリスト:	
	yuko kamachi	
	電子メール通知を繰り直す:	
	30 分用相	*
	最大の繰り返し目数(Dを使用して無限に繰り返し):	
	0	
	□ アラームが安信場所された場合に電子メールで進起する	
	アラームがオフにされた場合に電子メールで通知する	

- c [遅延]内で、最初の通知フィールドを送信する前に、その最初の電子メールを送信したい前の遅延時間を、時間および/または分(HH:MM)で指定します。
- 注意: [アラームオプションのアクティブ化前に遅延]を 設定している場合は、組み合わせ済みの時間遅延 がご使用のアラーム通知に割り込まないことを確 実にしてください。
- d「ユーザー リスト」テキスト ボックスをクリックして通知の 受信を承認済みのユーザーのリストを表示させます。[システム] | [ユーザー]内に1つの電子メールを指定したユーザー のみが可視化されるようになります(「ユーザーアカウントの作成」、ページ67をご参照ください。)ユーザーをドラッ グして [選択済みユーザー]カラムに対して通知させます。必

要な場合は[矢印]ボタンを使用して対象のリストの順番を再整理します。[OK]をクリックします。



- e 通知を受信する1つの特定電子メールまたは複数の電子メールを入力するには([システム]][ユーザー]内で事前構成済みでないもの)、その電子メールアドレスを[電子メールの送信先]テキストボックス内に入力してください。複数の電子メールアドレスはコンマで区切ってください。
- 注意: [電子メールの送信先] で指定された電子メール アドレスは、特定ユーザー用の電子メール アド レスに対して確認されません。[電子メールの 送信先]内に1つの電子メール アドレスを入力 した場合に、その同一の電子メール アドレスが 1つの特定のコンタクト スケジュールで[シス テム]|[ユーザー]内に指定されている場合に は、viewLinc はそのスケジュールを無視してそ の通知を発送します。
- f [電子メール通知の繰り返し] ドロップダウン メニュー内 で、対象の条件がまだ存在している間に電子メールが再送 信させる頻度の適切な時間間隔を入力してください。送信 されるべき再送信される電子メールの 最大の試行回数 を 指定することも可能です(限度を設定したくない場合には、 零、(0)を入力してください)。
- g つのアラームが受信確認されたときか、または対象の条件 がすでに存在していないかの場合に1つの電子メールをま た送信するには、その適切なチェックボックスで選択して ください。
- h 異なるアラーム条件用に異なる受信者に対してのアラーム 通知を発行したい場合は、異なる遅延時間間隔を持つ複数の 電子メール通知を作成してください。例えば、最初に受信者 に、1分程の短い遅延時間間隔を伴った通知を1つ作成し たい場合など。例えば、20分間の異なる遅延時間間隔を伴 う別のユーザー用へ別の電子メールを作成するなどです。こ の最初の通知が20分間内に受信確認されない場合には、こ の第二の通知が自動的に送信されることとなります。

- 注意: このアラーム電子メール内で送信可能な追加の 情報が存在しています。詳細については、「ア ラーム電子メール テンプレートの編集」、ペー ジ 63 をご参照ください。
- 6 対象の viewLinc サーバー コンピューター上にて 1 つの条件 が存在している場合にコマンドを実行することも可能です (こ れらが替わりに外部デバイス類をトリガーすることが可能で す)。コマンドの構成の方法:
  - a [通知] タブを選択。
  - b ➡[追加]をクリックしてから、[コマンドの追加]を選択します。
  - c そのコマンドに先立ち1つの遅延を指定する場合は、1つの遅延時間間隔を時間および/または分間(HH:MM)にて入力してください。
  - 注意: [アラームオプションのアクティブ化前に遅延]を 設定している場合は、組み合わせ済みの時間遅延 がご使用のアラーム通知に割り込まないことを確 実にしてください。
  - d [コマンドの実行]のテキストフィールド内で、適切なボックス内に [DOS コマンド]を入力してください。1つのアラームがトリガーされた時、1つの通知が繰り返された時、1つのアラームが受信確認された時、または1つのアラーム条件がすでの真でなくなった時には、異なったコマンドの実行が可能となります。

Quir Ann		
Gran - Khan Connard CES Even CES	BEDERLETSY Y RETY FLEAT LELET FLEAT AND	1
	75-JARSONISERJANGULTZ/FERITEL 75-JARSOLSERJANGULTZ/FERITEL 75-JARSOLSERJANGULTZ/FERITEL 75-JARSONISERJANGULTZ/FERITEL	

#### 例:

C:\Program Files\Veriteq Instruments\viewLinc\python\python" -m viewLinc.scripts.SwitchBbRelay < COM ポートの 番号 (リレー デバイスが接続されている)> < 補遺:FAQ & トラブルシューティング>内のスクリプト文書内で指定 されているオプション。 上記で示された例は、デジタル リレー I/O デバイスに特定 の Python スクリプトを示しています。異なるコマンドま たはスクリプトには異なるパラメータが適用されます。

- 7 つの電子メールにコメントを挿入するには、事前構成ずみコメントの1つのリストから選択することが可能であるか(「アラーム電子メールテンプレートの編集、ページ63をご参照ください)、または1つの新しいコメントを入力が可能です。どのようにコメントが1つの電子メール内に現れるかはその電子メールテンプレート内で定義されています。
  - a [コマンド]タブを選択。
  - b その通知に目的に適切である1つの事前構成済みコメントを 選択するか、またはその通知内で表示させたい1つの新し いコメントを入力してください。
- 8 アラームの設定が完了したなら、□[保存]をクリックします。 これでこのアラーム テンプレートは1つ以上のロガーまたはチャ ネルに対して適用することが可能です(「しきい値アラームの設定」、 ページ42または「通信アラームの設定」、ページ46を参照のこと )。ロガーに適用する際に、部分的な変更を行いたい場合は、「しきい 値アラームの編集」、ページ44、「通信アラームの編集」、ページ47、 または「ロガーアラームの編集」、ページ49を参照してください。
- つのしきい値条件テンプレートの作成の方法:
- [アラーム] | [しきい値テンプレート] から、
   ●[しきい値テンプ
   レートの追加]をクリックしてください。



2 デフォルトで、このテンプレートは「新しいしきい値テンプ レート」と名前が付けられています。そのタイトル内のいずれ か場所をダブルクリックしてこれを変更します。

新しいしきい値テンプレート

- **3** しきい値条件の設定。
- 4 既存のアラーム テンプレートを適用したい場合 (アラームがどの ように表示され、しきい値に到達したときに誰が通知されるのか を定義されている)、[アラーム テンプレートを使用する]を選択

してください (アラーム テンプレートの作成 36 ページ を参照し てください)。

- 5 このテンプレート用にカスタム化設定を定義したい場合は、 その[一般パラメータ]内、[通知]、および[コメント]内の フィールドを完成させてください。
- 6 ご利用のしきい値テンプレートの作成を終了されたなら、 [保存]をクリックしてください。

### しきい値アラーム

正しいアクセス許可を付与されているユーザーが、アラームをトリ ガーさせるロガー チャネルしきい値を設定してください。例:

- 1 分間を超えて 23.00 を超過
- 15 分間を超えて RH 37.76 を超過なし。

つのテンプレート (事前に構成済みの場合)を使用して1つのしき い値アラームの設定が可能であるか、または1つのカスタム アラー ムの設定が可能です。

### しきい値アラームの設定

いくつかのしきい値アラームの構成が可能です、例えば、軽度のア ラーム用に黄色アラーム、重度のアラーム用に赤色アラーム。例えば 次のような使用方法があります。最初に(しきい値を1分間超過する 条件で)黄色アラームのトリガー電子メールを誰かに送信する設定に します。赤色アラームをそのアラーム条件をより長い時間に設定し (しきい値を15分間超過する条件で)、ラボマネージャ、または通知 を受けてアクションをするスタッフのメールリストに電子メールを 送信する設定にします。

つのしきい値アラームの設定の方法:

1 [システム] | [ロガー]から、[ロガー]カラム上の[チャネル]内にて、しきい値アラームを設定したい対象の[チャネル]または[チャネル]を選択してください。

ロガー上のチャネ	UL D	4082123		80
テャネルの説明	•	ロガー	テャネル・	75-6
Humidity	κ.	Channel 11 (040)	2	アクティ
Temperature	<i>n</i>	Channel 11 (0408	1	727-

- 注意: 一度に複数のチャネルを選択するには、チャネ ルの選択時に [Ctrl] キーを押したままにします。 一覧内のチャネルのグループを選択するには、 [Shift] キーを押しながらその最初のチャネルと 最後のチャネルを選択します。
- 2 [しきい値]を選択して、 ↓ [X しきい値の作成]をクリックしてください (ここで X とはそのチャネルで測定される単位での読み取り、 C、 RH または mA への参照です)。

ロガー ユーザ	- 電子メール	環境設定 □	メント コンタ	クト スケジュール		
② 更新   樹市ス	ト・ �� ロガー・		)เลเฟล+ 💿	三井アクティブ化さ	れたアイテ	ムを表示する
ホスト	44	ホスト上のロ	y Laviers	装する		ロガー上の
ホスト名 -	ロガー	ロガーの説明	Cavine#	アクティブ化する	サンフ	チャネルの
fig.	4	Channel 11	> RHOLEN	目を作成する 0.	5分間	Humidity
		COM45	G Laviasm	アクティブ化する	1分間	Temperatur
		COM53	gint	08121309	198	
		HMT330-G0110	125 gift	G0110125	1分間	

#### [しきい値の編集]の画面が現れます。

しさい話を厳集する	
<ul> <li>図しきい信アラームを有効にする</li> <li>○ 使用するしきい信子ングレート:</li> <li>④ カスタムしきい信服定を使用する</li> </ul>	
しきい信息件: 次の信より大きい場合 * 0	104
<ul> <li>(1) アラーム テンプレートを飲用する:</li> <li>(1) カスタム アラーム放支を飲用する</li> <li>(1) スタム アラーム放支を飲用する</li> <li>(1) スタム アラーム放支を飲用する</li> </ul>	18
きコード: アラーム メッセージ:	6B.
アラームをアクティブ化する前に運転させる (bhowe): 受信補助が必要です:	(0:00 0

- 3 つの既存のしきい値テンプレートを使用して(推奨されています)1つのしきい値アラームを設定するには、[しきい値テンプレートの使用]を選択してから、そのドロップダウンリストから目的のテンプレート選択してください。
- 4 つのカスタム化しきい値を設定するには、[カスタム化しきい値 設定の使用]をクリックして、そのしきい値条件を定義してく ださい。例えば、その温度が21Cを超過したときにトリガー される1つの温度アラームなどです。
- 5 つの既存のアラーム テンプレート設定するには、[アラーム テンプレートの使用]を選択してから、そのドロップダウン リストから目的のテンプレート選択してください。
- 6 カスタム化アラーム設定をセットアップするには、[カスタム 化アラームの使用]を選択します。

7 その [一般的なパラメータ]、[通知]、および [コメント] タブ上 で以下に「アラーム テンプレートの作成」、ページ 36 記載さ れているステップ 3 から 8 までに従いご使用のアラーム設定 を設定してください。

#### しきい値アラームの編集

つのしきい値アラームの編集の方法:

- [システム]|[ロガー]から。しきい値を編集したい対象のチャ ネルを選択してから、編集するそのしきい値を選択します。
- 2 [しきい値]メニュー上で、☑[しきい値の編集]をクリックします。[しきい値の編集]の画面が表示されます。

Laverante		
<ul> <li></li></ul>		
Leven: zoszuzeiwe *	10	
879-272-148874 82488 ()229279-28884874 ()24-2-288 88 3751	•	×
83-F1 79-6.X70-51 79-6877747886888846(Minn)	88. 010	*
\$242/08(*)		

- 3 希望するように [しきい値設定]を編集してください。
- 4 [保存]をクリックします。

#### しきい値アラームの無効化

すべての設定情報を削除することなくアラームを一時的に無効化す ることが可能です(例えば、1つの場所から別の場所へ1つのロガー を移動したい場合など)。

つのしきい値アラームの一時的な無効化の方法:

- [システム]|[ロガー]内で、しきい値を無効化したい対象の チャネルの行を強調表示させます。
- 2 [しきい値]メニュー上で、[2][しきい値の編集]を選択します。
- 3 [しきい値の編集]画面内で、[しきい値アラームの有効化]を選 択解除します。
- 4 [保存]をクリックします。
  - 注意: アラームを一時停止させることも可能です-詳細 については「アラームの一時停止」、ページ51

### しきい値アラームの非アクティブ化および 再アクティブ化

既に必要とされないために、1 つのロガーのチャネルしきい値ア ラームを非アクティブ化したい場合を考えます。1 つの非アクティ ブ化済みのしきい値は「非表示」となりますが、再アクティブ化す ることが可能です。

つのしきい値アラームの非アクティブ化の方法:

- 1 [システム]|[ロガー]内で、しきい値を無効化したい対象の チャネルの行を強調表示させます。
- 2 [しきい値]メニュー上で、☆[しきい値の非アクティブ化]を選択します。

つのしきい値アラームの再アクティブ化の方法:

- 1 1 [非アクティブ化されたアイテムを表示する]をクリックします。
- - 注意: アラームを一時停止させることも可能です-詳細 については「アラームの一時停止」、ページ51 をご覧ください。

## 通信アラーム

ロガー間および viewLinc サーバー間での通信は、諸条件のリアルタ イム監視に不可欠なものです。これにより、viewLinc はどの地点に おける通信の遮断をもユーザーに通知するための通信アラームを搭 載しています。デフォルトで、ホストおよびロガーには1つの通信 アラームが事前構成済みとなっています。このデフォルトのアラー ムを編集するか、または追加の通信アラームをセットアップするか のいずれかが可能です。

#### 通信アラームの設定

つの通信アラームの設定の方法:

1 [システム] | [ロガー] から。その通信アラームを設定したい対

象のホストまたはロガーを選択します。

viewLind	C					
チャネル 転送	TRUE	システム	79-4(7	クティブなイベ	(ント:3) レポー	ŀ.
<b>₽</b> #− ユーザ	- 電子メール	現境2	88 3×>+	= =>97	トスケジュール	
2 更新   勝市ス	ト・ 🔶 ロガー・	• 🖬 🕫 1	ネル・ 🥥 しき	ruar - 1 🗑	非アクティブ化され	たアイ
ホスト		1.5.1	上のロガー 9時			•
ホスト名 🔺	ロガー	ロガー	の説明▲	ホスト	シリアル番号	サンプ
gift	4	Chan	nel 11	gift	04082123	5分間
		COM	15	gift.	08121313	1分開
		COM	50	gift	08121309	1分間
		HMTS	30-60110125	git	G0110125	1分間

2 つの[ロガーホスト通信アラーム]を設定するには、[ホスト] メニュー上で、 №[ホスト通信アラーム設定]を選択してください。

副7	tz + -
Ф	ホストを追加する
25	ホストを無効にする
0	ホストを再アクティブ化する
	ホスト通信アラーム設定
3	く前 ロガーを検出する

3 つの[ロガー通信アラーム]を設定するには、[ロガー]メニュー 上で、[ロガーアラーム設定]を選択してから、[ロガー通信ア ラーム設定]を選択します。

* = # - •			-
ゆ ロガーを枝	出する		
👍 ロガーを送	加する		
📝 ロガーを幕	集する		
💢 ロガーを非	アクティブ化する		
🥎 ロガーをV	り替える		
🥑 ロガーを用	アクティブ化する		
🔶 ロガーア	シーム設定	• 100	ロガー通信アラーム設定
1 フラームを	一時停止する	V	ロガー校正アラーム設定
79-48	再回する	<u> </u>	ロガー検証アラーム設定
		- 0	ロガー構成アラーム設定



ADA-9-648 88 3.525 82−35 85 97 79−62.5255-55 97 79−62.5259≤75€158€38€28€28€6 (Minis) 0:0 96488568€7€1 0	■フラームを有効にする 8フラームテンプレートを発用する: ○カスタム アラーム和定を使用する	85.8598	
82−00 = 0 = 0 = 0 = 0 = 0 = 0 = 0 = 0 = 0	//3#-9-28 25 2X21		
79-14779+7%T68C#82246(Minus) (0.0.) RGMRN/A#TY: □	8コード: 7ラーム メッセージ:	88	×
ELMERACH CV:	75-18777<78168C882866(html)	0.0	
	REMERCE (Y:		
			88 810

- 4 [アラームの有効化]を選択してください(1つのアラームは有 効化されるまでは「有効」ではありません)。
- 5 つの既存のアラーム テンプレートを使用して、1 つの通信ア ラームを設定するには、[アラーム テンプレートの使用]を選 択してから、そのドロップダウン リストから目的のテンプ レート選択してください。
- 6 カスタム化アラーム設定を設定するには、[カスタム化アラームの使用]を選択します。
- 7 その [一般的なパラメータ]、[通知]、および [コメント] タブ上 で以下に「アラーム テンプレートの作成」、ページ 36 記載さ れているステップ 3 から 8 までに従いご使用のアラーム設定 を設定してください。

#### 通信アラームの編集

デフォルトで、ホストおよびロガーには1つの通信アラームが事前 構成済みとなっています。これらのアラームは削除することができ ません、けれども編集することは可能です。

通信アラームの編集の方法:

- [システム]|[ロガー]から、編集したい通信アラームの対象で あるホスト名またはロガー名を強調表示させます。
- 2 つの[ロガーホスト通信アラーム]を編集するには、[ホスト]メ ニュー上で、[ホスト通信アラーム設定]を選択してください。
- 3 つの [ロガー通信アラーム] を編集するには、[ロガー] メニュー 上で、[ロガー アラーム設定] を選択してから、[ロガー通信ア

ラーム設定]を選択します。[通信アラーム設定]の画面が表示 されます。

13-F1		
D-Pi	10	
and shares the		
-0-0500-N		
ラームをアクティブ化する星に建乱させる(外小川)	10.02	
DBRANDECT:		

- 4 希望するように [アラーム設定]を編集してください。
- 5 [保存]をクリックします。

### 通信アラームの無効化

すべての設定情報を削除することなく通信アラームを一時的に無効 化することが可能です。

アラームの一時的な無効化の方法:

- 1 [システム]|[ロガー]から、無効化したい通信アラームの対象 であるホスト名またはロガー名を強調表示させます。
- 2 [ホスト]または[ロガー]メニュー上で、 [通信アラーム設定]を選択します。[通信アラーム設定]の画面が表示されます。

ロボー COMED (DECESSION) (ホスト gift 上) 道道 アラームの	12	
<ul> <li>第フラームを有効にする</li> <li>ラフラームランプレートを使用する。</li> <li>カスタムフラーム総定を使用する</li> <li>パワルーチー酸酸 煎取 2メント</li> </ul>	82,8594	w
名コード: フラームメッセージ: フラームオフフティブにする第二派王させる (Mumo): 安白県田があまです:	** ** 0	*
		88. 81225

- 3 [アラームの有効化]チェックボックスの選択を解除します。
   4 [保存]をクリックします。
  - 注意: アラームを一時停止させることも可能です 詳細 については「アラームの一時停止」、ページ 51 を ご参照ください。

## ロガー アラーム

ご使用のロガーの継続的な機能性の確保が正確なリアルタイム監視 に要求されています。これにより、viewLinc は、どの地点における ロガーの機能性が危害をこうむった場合にユーザーに通知するため にロガー校正、検証および構成のアラームを搭載しています。デフォ ルトで、ロガー用に事前構成済みの3つのロガーアラームが存在し ています(ロガー通信アラームに追加して)。これらのアラームは削 除することができません、けれども編集することは可能です。

### ロガー アラームの設定

ロガー アラームの設定の方法:

- [システム]|[ロガー]から。そのロガー アラームを設定したい 対象のロガーを選択します。
- 2 [ロガー]メニュー上で、[ロガー アラーム設定]を選択してから、設定したいロガー アラームのタイプを選択します。[アラーム設定]の画面が表示されます。
- 3 [アラームの有効化]を選択してください(1つのアラームは有効化されるまでは「有効」ではありません)。
- 4 つの既存のアラーム テンプレートを使用して、1 つのロガー アラームを設定するには、[アラーム テンプレートの使用]を 選択してから、そのドロップダウン リストから目的のテンプ レート選択してください。
- 5 カスタム化アラーム設定を設定するには、[カスタム化アラーム 設定]を選択して、[一般的なパラメータ]、[通知]、および[コ メント]タブを使用してカスタム化設定を定義してください(以 下で記載されている「アラーム テンプレートの作成」、ペー ジ 36 ステップ 3 から 8 までをご参照ください)。

#### ロガー アラームの編集

つのロガー アラームの編集の方法:

- [システム]|[ロガー]から。そのロガー アラームを編集したい 対象のロガーを選択します。
- [ロガー]メニュー上で、[ロガー アラーム設定]を選択してから、編集したいロガー アラームのタイプを選択します。
- 3 希望するように [アラーム設定] を編集してください。
- 4 [保存]をクリックします。

#### ロガー アラームの無効化

つのロガー アラームの無効化の方法:

- 1 [システム]|[ロガー]から。アラームを無効化したいロガーを 選択してください。
- [ロガー]メニュー上で、[ロガー アラーム設定]を選択してから、無効化したいロガー アラームのタイプを選択します。
- 3 [アラームの有効化]のチェックボックスの選択を解除します。
- 4 [保存]をクリックします。
  - 注意: アラームを一時停止させることも可能です-詳細に ついては「アラームの一時停止」、ページ51「ア ラームの一時停止」、ページ51をご覧ください。

### アラームの受信確認

すべてのユーザーはアラームを受信することが可能ですが、正しい アクセス許可を付与されたユーザーのみがアラームの受信確認が可 能です。

つのアラームがアラームの受信確認を要求するように設定されてい る場合、アラームは受信確認させる必要があります。アラームを受 信確認するには、viewLinc にログインしている必要があります。

実行された操作およびあらゆるコメントなどの受信確認情報は、「イ ベント ログ」および「履歴データベース」内において追跡されてい ます。詳細については、第章:イベントおよび 第章:レポートをご参 照ください。

アラームもまた、受信確認を必要としないように構成させることも 可能です。詳細は、「しきい値アラームの設定」、ページ 42、「通信 アラームの設定」、ページ 46、および 「ロガー アラームの設定」、 ページ 49 をご参照ください。

つのアラームがトリガーされた時、[アラーム]タブに1つの新しい 行が現れます。

このセクションは、[アクティブなアラーム] タブを使用したアラー ムの受信確認を取り扱っています。1 つの「ラージ チャネル ビュー」 からアラームを受信確認することも可能です(「ラージ チャネル ビューからのアラームの受信確認」、ページ 27をご参照ください)。

アラーム タブからのアラームの受信確認の方法:

- 1 [アラーム]|[アクティブなアラーム]から、対象の[アクティ ブなアラーム]を選択してから、♥[受信確認]をクリックし ます。
- [アラームの受信確認]のダイアログボックスが現れて実行された操作およびコメントの入力するよう確認してきます。

3 [受信確認]をクリックしてください。入力されたコメントおよび操作は「イベントログ」内に追加され、[アラームの受信確認]ボックスが閉じられます。「マイチャネル」が状態内でのこの変化と共に更新されることとなります。

### アラームの一時停止

ロガーを移動させる必要のある場合や、また1つの特定の既知の状況が設定されているしきい値を超過させる状況をもたらすような場合に、アラームを一時停止させたい場合も考えられます。アラームの一時停止は、1つの一時的な期間でのアラームの無効化よりも迅速です。24時間を超えない範囲で1つのアラームを一時停止させることが可能です。

つのゾーン内にすべてのアラームを一時停止させる方法:

▶ [チャネル] | [マイ チャネル] から、一時停止させたい対象の ゾーンを選択してから、■ [アラーム実行の一時停止] をクリッ クします。一時停止させる特定のロガーまたはチャネルを選択 することも可能です。

つのアラームを一時停止させる方法:

- 1 [システム]|[ロガー]から、アラームを一時停止させたい対象 のロガーまたはチャネルを選択します。
- 2 すべてのロガー アラームまたは1つの個別のチャネルアラームを一時停止させるには、[ロガー]または[チャネル]を選択してから、₩[アラームの一時停止]を選択します。
- 3 [アラーム実行の一時停止]のダイアログボックス内で、この一時停止の1つの理由を入力して、アラームを一時停止させる対象の時間量を選択します。[OK]をクリックします。

「マイ チャネル」エリア内で、[アラーム実行状態]のカラムが変化 して、アラームが一時停止される時間が表示されます。

つのゾーン内の 1 つ以上のチャネルのアラーム実行を再開させる 方法:

▶ [チャネル] | [マイ チャネル] から、再開させる 1 つ以上のゾーン、 ロガーまたはチャネルを選択して、▶ [アラーム実行の再開]を クリックします。

つのアラームを再開させる方法:

1 [システム]|[ロガー]から、アラームを再開させたい対象のロ ガーまたはチャネルを選択します。 2 すべてのロガー アラームまたは 1 つの個別のチャネル アラームを再開させるには、[ロガー]または [チャネル]を選択してから、▶[アラームの再開]を選択します。

# 第章:システム設定

viewLinc内にはいくつかの重要な管理画面が存在しており、すべての項目は[システム]タブの下にまとめられています。このセクションは、理解していることが必要な以下の各管理タスクを取り扱っています:

- ロガーの検出
- ロガーの追加
- ロガーの切り替え
- ロガーの削除
- ロガーおよびチャネル プロパティの編集
- 電子メール設定の構成
- アラーム電子メール テンプレートの編集
- ユーザー アカウントおよびパスワードの作成、編集、または非 アクティブ化
- アラーム編集能力用のユーザーへのアクセス許可の供与
- 特定チャネル監視目的でのユーザーへのアクセス許可の供与
- ロガーおよびチャネル説明表示長の選択(エイリアス)
- 温度測定単位の優先項目の選択
- セッション有効期限時間の設定
- •事前構成済みコメントの作成

イベント ログおよびレポートの生成での情報については、第章:イ ベント、および 第章:レポートを参照してください。しきい値アラー ムの設定での情報については、第章:アラームを参照してください。 「システム」内での「ロガー」および「チャネル」との操作につい て学習を始めます。

### ロガー検出

「マイ チャネル」内に未表示の可能性のある最近接続済みの バイサ ラ ベリテック ロガーの 自動での検出方法 :

- 注意: 300 シリーズ送信機はこのロガー検出手順を使 用する viewLinc のよって検出されません。 viewLinc はこれらを自動的に検出しています (または必要に応じてご使用の Digi Discovery ソフトウェアを使用することができます)。
- ▶ [システム] | [ロガー] から [ロガー] をクリックしてか ら、[ロガーの検出] をクリックします。



注意: このプロセスは数分間かかる場合もあり、ご使 用のネットワーク内でのバイサラ ベリテック ロガーおよび/または各コンポーネントの数に 依存しています。

### ロガーの追加

ご使用のシステムにロガーを追加したい場合:

- ロガーの検出に時間がかかりすぎる
- 300 シリーズ送信機口ガーを追加しようとしている
- 一度にたくさんのタイプのロガーを追加したい。
   注意: 一度に複数のバイサラ ベリテック ロガーを追加するには、「ロガー検出」、ページ 54 をご参照ください。

バイサラ ベリテック ロガーの追加方法:

 [システム] | [ロガー] から [ロガー] をクリックしてから、[ロ ガーの追加] をクリックします。



- 2 [ロガーの追加] 画面内で、[デバイス クラス] ドロップダウン リ ストからベリテック ロガーを選択します。
- **3** その COM ポート番号を入力します。
- 4 Toバイサラ ベリテック ロガーおよび 300 シリーズ送信機ロガーの組み合わせを追加するには、[アップロード定義ファイル]を選択してからファイル名を入力するか、または正確なファイルを参照します。いくつかのバイサラ ベリテック ロガーの追加するには、「ロガー検出」、ページ 54 をご参照ください。「定義ファイル」を作成するには、にてページ 93 をご参照ください。
- 300 シリーズ送信機の追加方法:
  - 注意: 追加しようとする送信機上でその他のユーザー が誰もログオンしていないことを確実にしてく ださい。
- [システム] | [ロガー] から [ロガー] をクリックしてから、[ロ ガーの追加] をクリックします。



- 2 [ロガーの追加] 画面内で、[デバイス クラス] ドロップダウン リ ストから 300 シリーズ送信機を選択します。
- 3 以下を入力します:
  - a スキャン後に切断:対象デバイスに対する継続的な接続を 維持するには、FALSEを選択します。
  - b 接続タイプ:この送信機が LAN または WLAN モジュール である場合、ネットワークを選択します。既存の Digi デバ イスを使用している場合、[COM ポート]を選択してくだ さい。
  - c TCP ポート: デフォルトは 23 です (変更できません)
  - **d** IP アドレス:担当の管理者に問い合わせるか、または対象 のロガー ボックスを確認します。
  - e サンプルレート:90を選択してください(推奨されていますが、より多くまたは少ないレコード済みデータを希望する場合はこのレートを変更できます)。
  - f 接続タイムアウト:継続的監視を確実にするために、変更し ないでください。必要な場合は、担当のネットワーク管理 者にご連絡ください。
- 4 いくつかの 300 シリーズ送信機またはバイサラ ベリテック ロガーおよび 300 シリーズ送信機ロガーの組み合わせを追加 するには、[定義ファイルのアップロード]を選択してからファ イル名を入力するか、または正確なファイルを参照してください。 [定義ファイル]を作成するには、にてページ93をご参照 ください。

### ロガーの切り替え

保守目的で1 つのデータ ロガーを発送する必要がある場合 (再較 正など)、継続的監視およびアラーム続行を確保するために別のロ ガーと対象のロガーを交換する必要があります。

注意: 交換されることなく1つのロガーが取り除かれ ると、これによって通信アラームがトリガーさ れるようになります。

個のロガーが切り替えられる場合、その変更がチャネル履歴レポート内に記録されます(これレポートはレポート間隔でロガーシリアル番号を表示します)。このレポート間隔の間に、このロガーが交換された場合、このイベントはそのレポートサマリー内に列挙されます)。この新しいロガーは、交換対象のロガー ID、ロガーとチャネル説明(バイサラ ベリテック ロガーのみ)、アラーム設定および転送スケジュールを継承します。

つのロガーの切り替え方法:

- 1 新しいロガーが切り替えられるロガーと同等であることを確実にしてください([システム]][ロガー]、または『vLog、Spectrum またはバイサラ製品ユーザーガイド』をご参照ください)。
  - 注意: 各バイサラ ベリテック ロガーは、vLog または Spectrum を使用して再確認される必要があり、 これらが接続されている COM ポートは [ツー ル] | [オプション] から選択される必要がありま す。
  - COM ポート /IP アドレス。ロガーが同一の COM ポート上 にあること(同一のケーブルに接続されている)。ネット ワーク デバイスとして接続されている 300 シリーズ送信機 を切り替えようとしている場合、新しい送信機が同一の IP アドレスを所有していることを確実にしてください。
  - 名前。ロガーが廃棄されたり、または非アクティブ化された りしていないこと。
  - ステータス。ロガーがアクティブなアラーム モードにないこと。
  - サンプル間隔。ロガーが同一のサンプル取得間隔を所有していること。
  - チャネル。各ロガーが有効化済みの同一のチャネルを所有しており、各対応チャネル用に同一の測定単位を使用していること。
  - 監査経路。バイサラ ベリテック ロガーが vLog 監査経路にリ ンクされていないこと。
- 2 [システム] | [ロガー]から。[ホスト]を選択してから、[ロガー] にて切り替え(削除する)ロガーを選択します。
- 3 [ロガー]メニューにおいて、<sup>■</sup>[アラームの一時停止]を選択し ます。
- 4 「アラームの一時停止」画面内で、各ロガーの切り替える理由 についてのコメントの追加およびこの一時停止の予想される 継続時間を指定することが可能です。これは、このロガーが切 断された場合に何も通信アラームまたはしきい値アラームが トリガーされないことを確実にします。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 切り替えたいロガーを切断して、新しいロガーを接続します。 300シリーズ送信機を切り替えようとしている場合、電源コードを引き抜いてから、再度電源プラグを接続してください。
- 7 [更新]をクリックしてそのロガー一覧を更新します(そのロガー が現れるのに数分間待機する必要がある場合もあります)。この

新しいロガーが以前に切り替え済みであるばあいには、これは 各非アクティブ化済みロガーの一覧内で発見されることになり ます。

- 8 [システム] | [ロガー] から、削除したいロガーを選択します。
- 9 [ロガー]メニューにおいて、 役[ロガーの切り替え]を選択します。
- 10 対象の正しいロガーが内でフィールドと共に識別されていることを検証してから、[OK]をクリックします。viewLincはこのロガーを再割り当てするようになります。
- 11 この [ロガー] メニュー上で、この新しいロガーのアラーム発 行を再開させたい場合は、▶ [アラームの再開]を選択します。
- ロガー の削除

viewLinc の通信アラームはそのシステムと通信していないあらゆ るロガーを通知するべく設定されているために、1 つのロガーをそ のシステムから削除するには「ロガーの非アクティブ化」機能を使 用する必要があります。

つのロガーの非アクティブ化の方法:

- 1 [システム]|[ロガー]から、[ホスト]を選択してから、非アク ティブ化したいロガーを選択します。
- 2 [ロガー]メニュー上で、 ※[ロガーの非アクティブ化]をクリックします。



3 つのダイアログが現れ、このロガーを削除したいことの確認を 要求してきます。[はい]をクリックします。

これでこのネットワークからの対象のロガーの削除ができました。

### ロガーのプロパティおよびエイリアスの編集

viewLinc は、バイサラ ベリテック ロガーのプロパティの編集を可 能にしています (そのロガー内で最長 16 半角英数文字数)、またロ ガー エイリアス (最長 64 半角英数文字数、そのロガー内には非格 納) も同様に編集が可能です。viewLinc 内で 300 シリーズ送信機 のエイリアスを編集できます。

ロガー プロパティの編集は、ViewLinc がそのロガー用に使用する ようになる 1 つの説明またはエイリアスを指定することを可能に しています。viewLinc が使用する ID (ロガーの説明および/または エイリアス)を[システム]|[優先項目]|[ロガーの説明]と選択し て設定することが可能です(「ロガーおよびチャネル説明長の選択 (エイリアス)」、ページ 69を参照)。

追加のロガー プロパティの変更には、ご使用のバイサラ 製品『ユー ザー ガイド』をご参照ください。

注意: ご使用のロガーが vLog 監査経路にリンクされて いる場合、最初にその監査経路へのリンクを無 効化するか、または vLog 内の該当の各ロガー プロパティを編集するかする必要があります。

ロガー プロパティの編集の方法:

- 1 [システム]|[ロガー]から。[ホスト]を選択してから、各プロ パティを編集したい[ロガー]を選択します。
- 2 [ロガー]メニューにおいて、 [□ガーの編集]をクリックします。または、対象のロガーの行をダブルクリックします。



3 「ロガー プロパティの編集」画面内で、[説明]のテキストボックス内に、その新しい情報を入力します(バイサラベリテックロガー用のみ最大16半角英数文字です)。[エイリアス]テキストボックス内で、希望する場合はより詳細なエイリアス(最大64半角英数文字)を入力します。このエイリアスは、[システ

ム] | [優先項目] 内で指定した場合に各ロガー内に格納されてい る各説明のかわりに viewLinc が表示するようになります。

Property	值
ホスト	gift
デパイス クラス	Veriteq Logger
エイリアス	
統明	Channel 11
COM #	8

4 [OK] をクリックして保存します。

## チャネル プロパティおよびエイリアスの編集

利用可能である場合は、viewLinc はチャネルの説明、エイリアス、 および優先される温度単位の編集を可能にします。これは簡単に1 つのチャネルを画面上で識別するのに有用です。

注意: ご使用のロガーに依存し、すべてのロガー チャ ネルがそれらの説明を変更できるわけではあり ません。

チャネル プロパティの編集の方法:

- 1 [システム]|[ロガー]から。[ホスト]を選択してから、各チャ ネルのプロパティを編集したい[ロガー]を選択します。
- 2 編集したい [チャネル]を選択します。
- 3 「チャネル」メニュー上で、 [チャネルの編集] をクリックします。または、対象のチャネルの行をダブルクリックします。



4 [チャネル プロパティの編集]ダイアログ ボックス内の、[エイ リアス]テキスト ボックス内で、希望する場合はより詳細なエ イリアス (最大 64 半角英数文字)を入力します。このエイリ アスは、[システム]|[優先項目]内で指定した場合に各ロガー 内に格納されている各説明のかわりに viewLinc が表示するよ うになります。 5 [説明] テキスト ボックス内に、説明 (最大 16 半角英数文字) を 入力します。

Property	値
ロガー	04082123
デパイス クラス	Veriteq Logger
エイリアス	
統明	I
単位タイプ	湿度
単位	RH

- 6 システムのデフォルトの温度単位を使用したくない場合は((シス テム))[優先項目]タブ)、1つの特定のチャネルを使用される温 度単位を変更することが可能です。既存の単位優先項目をクリア して、そのシステムデフォルトを受け入れる場合は、[優先単位] フィールド内でオプションの、[システムデフォルトの使用]を クリックしてください。
- 7 [OK] をクリックして保存します。

### 電子メール設定の構成

アラーム通知は電子メール経由で送信されるため、各管理者は使用 するメール サーバーから適切に電子メール メッセージを発信する ために「各電子メール設定」を設定する必要があります。どのユー ザー名およびパスワードを使用したらよいのかが不明である、また はどのチェックボックスを有効化するかが不明な場合は、担当の IT 管理者にご連絡ください。

電子メール設定の構成の方法:

 viewLinc内で、[システム] | [電子メール]を選択。「電子メール」画面が現れ、さまざまな viewLinc メッセージで使用する 各電子メール テンプレートを表示します。  2 (電子メールの設定)をクリックします。[電子メール]設定 画面が現れます。

	1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.1.	The second	
システム全知道知用の電子コ	(ールアドレス:	administrator@viab.com	
Tree TFLA			
viewLine がモデメール通知者	(第四十67)/レス)	viewlink_system@yourcompany.com	
1887-11-			
	mail yourserver.com		
ボート (デフォルト値は 25 です)	25		
サーバー タイムアット	80		
POPS BRANETT.			
	( and the second second	and the second se	

- 3 「管理者の電子メールアドレス」を入力します。このアドレス がすべてのシステム通知を受信するために使用されます。
- 4 つの有効な [発信元] アドレスを入力します。viewLinc からの通知はこのアドレスから「送信」されるようになります、それゆえこの電子メール アドレスが存在する必要があります。例:viewlinc\_system@yourcompany.com またはcontrolroom47@yourcompany.com など。必要な場合には1つの [発信元] アドレスを作成するために担当の IT 管理者に連絡してください。
- 5 [送信サーバー]エリア内で以下を入力します:
  - つの送信 SMTP メール サーバー名 (例: mail.yourserver.com)
  - つの送信メール サーバー ポート。担当の IT 管理者がこの情報を持っています。
  - つの適切なサーバー タイムアウト 時間間隔。
- 6 ご使用の送信メール サーバーが認証を必要な場合は、[SMTP 認証] チェックボックスを選択して、そのサーバー上に送信される該当のユーザー名およびパスワードを入力してください。
- 7 ご使用の送信メール サーバーが、メールの送信に先立ち 1 つの POP3 接続経由での認証を要求する場合は、以下の各設定を構成してください:
  - a [POP3 接続が必要] を選択します。
  - b 対応する受信 POP3 メール サーバー名を入力します。
  - c 対応する受信メール サーバー ポートを入力します。
  - d [POP3 認証]を選択してから、対象の viewLinc システム が使用するために有効な POP 3 アカウント用の 1 つの ユーザー名およびパスワードを入力してください。
- 8 [電子メールの試験] をクリックしてご使用の各設定を試験してください。これらが「OK」である場合は、続行してください。そうでない場合は、これらの各ステップで明示されているようにその試験電子メールが正常に発送されるまで各設定を調整してください。
- 9 [保存]をクリックします。

### アラーム電子メール テンプレートの編集

さまざまなアラーム通知内で各アラームに関して送信される情報を 編集可能です - 例えば、1 つの通信またはしきい値アラームについ て通知する電子メール、1 つの繰り返し済みのアラーム、1 つの受信 確認済みアラーム、または、1 つのロガー転送など。電子メールを メッセージ デバイスまたは携帯電話へ送信するか、または会社組織 内での1 つの特定の目的のために送信する場合は、内容を編集する ために電子メールを編集を希望される場合も考えられます。

多くの異なったアイテムを含めたり、または含めたりしないように 電子メール テンプレートを編集可能です。以下がその例です。

- ロガーの説明
- イベント タイプ
- アラームの詳細
- 日付
- 時刻
- チャネル
- コメント(カスタム化または各事前構成済みコメント)

電子メール テンプレートの編集の方法:

1 [システム]|[電子メール]から、編集したい対象の電子メール テンプレートを含んでいる行を選択して、☑ [電子メール テン プレートの編集]をクリックします。または、編集する行をダ ブルクリックします。対象の「電子メール テンプレート」 画面 が現れます。

2 「電子メール テンプレート]画面内で、対象の電子メール テンプ レート メッセージを編集します。括弧 []内の各アイテムは、 viewLinc が対象電子メール内に挿入するマクロ変数です。異 なった変数を選択するには、1つのマクロを追加したい場所をク リックしてから、[マクロ]をクリックし、そのドロップダウン リストから使用したい変数を選択してください。

モチメール テンプレート		
会マタロ+ お 97	eルト値にリセットする	
メニローいの情報:	viewLinc・サーバー (Server) 上の viewLinc からのテスト メッセージです	
メッセージ本文)	これほコンピューター「Server」上で作成されたタストをデメールです。 このメッセージが読めるということは、viewLine サーバー上の SMTP 最近が立しいことを意味します。	
	88 Backs	

3 終了したなら、[保存]をクリックします。

### ユーザーとの作業

viewLinc をインストールされる場合、1 つのデフォルトの「管理者」 アカウント (フル コントロールを付与されたユーザー アカウント) が作成されます。そのユーザー名およびパスワードは、両方とも 「admin」です。

この管理者パスワードを速やかに変更することは重要です(「ユー ザーおよびパスワードの編集」、ページ 69を参照)。

また、その他のユーザー用に各アカウントを作成して、それらのログ イン名、電子メール アドレスおよびスケジュール (アラーム通知を受 信するべき回数)、セキュリティ レベル、閲覧可能な各チャネル、お よび認証の方法 (viewLinc ログインを使用するか、または Windows ログインと同様なログインの使用するか)を指定する必要があります。 viewLinc は、以下の表で概略されたいくつかのユーザー セキュリ ティ レベルを提供しています:

セキュリティのレベル	権限
フル コントロール	<ul> <li>フルの権限</li> <li>viewLinc 3.4 およびそれ以前 バージョンでは、これは 1 つの「管理者」アカウント であったものです</li> <li>すべてのチャネルを閲覧可 能(各チャネルの割り当てま たは制限は不可能)</li> </ul>
アラームの構成	<ul> <li>「カスタム化しきい値の構成」と同様であり、各アラームの構成が可能</li> <li>すべてのチャネルを閲覧可能(各チャネルの割り当てまたは制限は不可能)</li> </ul>
カスタムしきい値の構成	• [ アラームの受信確認] と同 様であり、各アラームしき い値の構成が可能
アラームの受信確認	<ul> <li>[表示]と同一であり、各ア ラームの受信確認が可能</li> </ul>
表示	<ul> <li>ゾーンの表示および非表示</li> <li>イベントログの表示、編集、 印刷および並び替え</li> <li>アラームおよび履歴データレポートの生成</li> <li>チャネルの限定された1組を 閲覧目的で割り当てが可能</li> </ul>

表 5: viewLinc ユーザー セキュリティ レベルに関連した権限

### コンタクト スケジュール の作成

viewLinc は、1 名の特定ユーザーが各アラーム通知を受信する回数を設定可能にしています。各ユーザーは、「常に」、「受信なし」、 または各スケジュールされた時刻および各出勤の日付で各通知を 受信するように設定可能です (例えば、7:00 ~ 19:00 での 4 日間 出勤、5 日間休日のシフト、または 08:30 ~ 17:30 で 5 日間出勤、 2 日間休日のシフト)。

各コンタクト スケジュールは各ユーザー アカウントに適用される ので、各スケジュールのパターン (各日にち、各時間)を1名の特 定ユーザーに適用する前に設定する必要があります。

コンタクト スケジュールの作成の方法:

 [システム] | [コンタクト スケジュール] から、
 【コンタクト スケジュールの追加]をクリックします。この「コンタクト ス ケジュール」のエリアは、有効化されます。

初期:	40		٧
MRDH:	2011-0	216	3
単り出し日数:	7		
<b>H111</b>	8.4	R.223	
	1	08/00/12/00	
	2		
	3		
	4		
	5		
	4		
	7		
	10% %:07: ft4.02	のコンマで安切られた機能の期後を入力してください。 39 ほ200、1300-1500と500となります。 19時にには、今日本人たてくだだい。1 日中の場合は 00:00-34:00 を入力してくだだい。	

- 2 [状態]のドロップダウンリストから、[有効]を選択します。これは、開始日付、各繰り返し日のパターン、およびその各時間間隔の設定を可能にしています。
- 3 そのテキスト ボックス内に入力するか、またはカレンダーから 選択して1つの開始日付を選択します。
- 4 各繰り返し日の指定。7日間毎にそのコンタクトスケジュールを 繰り返すには、7を入力します。9日間には9を入力します。 最大値は99日間です。
- 5 各「時間間隔」行内に、以下の形式にて 24 時間表示で対象の 時間間隔を入力してください: xx:xx-yy:yy、xx:xx がその開始 時刻、yy:yy が終了時刻です。断続的な各スケジュールな場合 には、各時間間隔を1つのコンマで区切ります。例えば、08:00-12:00, 13:00-16:00)。全日でのコンタクトには、00:00-00:00 を 入力します。1日内に全くコンタクトがない場合は、その日付 欄を空白にしておきます。
- 6 [保存]をクリックします。ご使用のスケジュールは、「新しい スケジュール」と名前が付けられるようになります。名前を変 更するには、その行をダブルクリックしてください。
  - 注意: 一時的にそのスケジュール化の能力を無効化す るには(例:各通知を「常に」または「受信な

し」で送信するようにするには、その[状態]ド ロップダウンボックスから「常に」または「受 信なし」を選択してください。これで後から設 定した各スケジュールを選択または編集すること が可能となり、「有効」を再度選択します。

#### ユーザー アカウントの作成

ユーザー アカウントの作成の方法:

- [システム] | [ユーザー] から、
   [ユーザーの追加] をクリック してください。
- 2 「ユーザー プロパティ」画面内で、対象ユーザーのログイン名を 入力してください。

ログイン名:	steven smith	
電子メール:	smith@vlab.com	_
スケジュール:	常に	*
セキュリティ		
すべてのチャネルを表 示する:	M	
セキュリティのレベ ル:	アラームを受信確認する	-
<b>プラームを受信権認する</b> 、	Ka-	
▲ パスワードまたは 間	臣を変更してください	
Windows 1817:	M	
パスワード:		
パスワードを確認す		

- 3 対象ユーザーの1つの電子メール アドレスを入力します。
- 4 viewLinc は、1 名のユーザーが就業中の場合を指定すること が可能であるため、各ユーザーがそれらの電子メール アドレス においてこれらのユーザーが就業中における各アラームでの 通知を可能にしています。[スケジュール]のドロップダウンリ ストから対象ユーザーへ1つの「スケジュール」を選択してく ださい。常に(各ユーザーは常に各アラームを通知される)、受 信なし(決して通知されません)、または別にリストされたスケ ジュール。

- 注意: 「スケジュール」を指定するには、「コンタクト スケジュールの作成」、ページ 65をご参照くだ さい。
- 5 「セキュリティ」のエリアから、このユーザーが閲覧可能な各 チャネルを選択してください。「すべてのチャネルの表示」を 選択するか、または[チャネル]ボタンをクリックして特定の チャネル(複数)を指定するかのいずれかを実行してください。
- 6 その ユーザーのセキュリティ レベルを選択します:
  - [表示] = ユーザーはデータのみを閲覧可能(各チャネルおよび各アラーム状態、各レポートの生成)。
  - [アラームの受信確認] = ユーザーは閲覧の各権限保有、各 アラームの受信確認が可能。
  - [カスタム化しきい値の構成]=ユーザーは閲覧および受信確認の権利を所有しており、各アラームしきい値を構成可能。
  - [アラームの構成] = ユーザーは閲覧および受信確認の権利を 所有しており、各アラームしきい値、各通信アラームおよび 各ロガー アラームを構成可能。
  - [フル コントロール] = ユーザーがすべてのアクセス許可を 所有。各ロガーの追加/非アクティブ化、ロガーおよびチャ ネルの説明の編集、各ユーザーの管理、システムの各優先項 目の設定、各レポートの作成、閲覧および割り当て。
- 7 Windows 認証を使用される場合は、その [Windows 認証] チェックボックスを選択し、viewLinc が Windows に依存して 対象のユーザーのパスワードをログイン時に検証するようにし ます。このオプションを使用して、各ユーザーの通常の Windows ユーザー名およびパスワードで viewLinc にログオン させることが可能となります。
- 8 パスワード1つ入力して確認します (このフィールドは viewLinc 認証を使用した場合のみ利用可能です)。
- 9 [保存]をクリックします。
  - 注意: viewLinc は、変更が行われるごとに、または分 で設定された時間経過後のいずれかにおいて各 ユーザーのユーザー名およびパスワードを再入 力させることでの各ユーザーに再識別を可能に する機能を提供しています。この優先項目を設 定するには、「セッション有効期限の設定」、 ページ 70 をご参照ください。

### ユーザーおよびパスワードの編集

ユーザー アカウントおよびユーザー パスワードの編集の方法:

- 1 viewLinc 内で、[システム] | [ユーザー] に移動します。
- 2 対象のユーザーを選択して、 【ユーザーの編集】を選択します。または、編集したいユーザーを含んでいる行をダブルクリックします。「ユーザープロパティ」の画面が現れます。
- 3 この「ユーザー プロパティ」の画面から、必要な各設定項目を 編集してください。
- 4 [保存]をクリックします。
   注意: Windows 認証を使用していない場合にのみ、
   viewLinc 内での各パスワードの編集が可能です。

#### ユーザーの非アクティブ化

ユーザーの非アクティブ化の方法:

- 1 [システム] | [ユーザー]から、非アクティブ化したいユーザーを 選択してください。
- 2 💢 [ユーザーの非アクティブ化] をクリックします。
- 3 この変更を[はい]をクリックすることで確認します。

#### ユーザーの再アクティブ化

ユーザーの再アクティブ化の方法:

- 1 [システム] | [ユーザー] から、 <sup>3</sup> [非アクティブ化済みユーザー の表示]をクリックしてください。すべての非アクティブ化済 みユーザーが、灰色テキストで表示されます。

## ロガーおよびチャネル説明長の選択 (エイリアス)

バイサラ ベリテック ロガーは、最大 16 半角英数文字の説明をそ れらの内部に格納しています (300 シリーズ送信機は説明を格納し ていません)。各チャネルの説明は最大で 12 半角英数文字長の保有 が可能です。管理者によっては、長めでより情報量の多い説明の表 示が好まれる場合もあります。これを実現するために、viewLinc は、1 つのロガーまたはチャネルについて最大 64 半角英数文字長 までの 1 つのエイリアスの設定を可能にしています。 viewLinc が対象ロガー内部に格納済みの説明か、またはそのエイ リアスかを表示させるのを選択するには、[システム] | [優先項目] 内で[チャネルの説明] および/または[ロガーの説明]を設定して ください。

チャネルまたはロガーの説明の優先項目の設定の方法:

1 viewLinc 内で、[システム] | [優先項目] に移動します。

NAME AND ADDRESS OF	TRUBELLA DE L	
NAME AND ADDRESS OF AD	1 1 1 4 14 14 14 14	
88-1		
#18428##	100 -LOPPELOBERETS	
3-0-00000000000000000000000000000000000	a.	
12.484	2017-0-0-04649849-6	
mews:	a process and the second	

- 2 「チャネルの説明」の行内で、[ロガーからのチャネルの説明の 使用]または[チャネルのエイリアスの使用]を値のドロップダ ウン リストから選択してください。
- 3 [ロガーの説明]用にご使用の優先項目の選択を繰り返し設定してください。

### 温度測定単位の優先項目の選択

viewLinc がインストールされると、温度は摂氏度で表示されるように設定されています。摂氏または華氏のいずれかで各温度を表示 するように viewLinc の構成が可能です。

温度測定単位の選択の方法:

- 1 viewLinc 内で、[システム] | [優先項目] に移動します。
- 2 [名前]カラム内で、[優先される温度単位]を選択し、[値]カラム 内で、[摂氏](C)または[華氏](F)のいずれかを選択します。

名称 -	11
テヤネルの説明	ロガーからのチャネルの統計を使用する
ユーザーは自身の心を破除する必要があります	#L
ロガーの説明	ロガーからの説明を使用する
道度単位	C
	c
	F

注意: この手順は、対象のロガーの温度測定方法を改 変しません - これは温度が表示される単位を改 変するものです(既に優先単位設定が割り当て 済みのチャネルは除外します)。

### セッション有効期限の設定

viewLinc は、その経過後に1 名のユーザーまたは管理者がその識別を各自のパスワードを入力することで再確認をする必要のある1

つのセッション有効期限を設定することが可能です。これは、 viewLincを非認証ユーザーの改ざん行為から保護するものです。

この有効期限を、「なし」、「常に」(すなわち、対象システムへのいかなる変更の前にはパスワード確認が要求されます)、またはログイン後に1、5、10、15、30 および60 分間の時間間隔での確認するか、または各ユーザーのパスワードの再確認するかのいずれかを選択することが可能です。

この設定は、すべての viewLinc ユーザーおよび管理者達に対して 同一であります。

セッション有効期限の設定の方法:

- **1** viewLinc 内で、[システム] | [優先項目] を選択。
- 2 [名前]カラム内で、【ユーザーは各自の識別の確認が必要】をク リックしてから、[値]カラム内で1つの有効期限を選択して ください。

チャネル 転送 イベント <b>システム</b> アラーム (アクティブなイベント:4) レポート		
ロガー ユーザー 電子メール 環境設定 コメント コンタクトスケジュール		
名称。	值	
チャネルの説明	ロガーからのチャネルの読明を使用する	
ユーザーは自身の ID を確認する必要があります	最後の認証から 5 分開	
ロガーの説明	なし	
温度単位	常に	
	最後の認証から1分間	
	最後の認証から 5 分問	
	最後の認証から 10 分間	
	最後の認証から 15 分間	
	最後の認証から 30 分開	

### 電子メール用事前構成済みコメン

管理者たちは、「イベントログ」内にこれらのコメントを含ませる ことはもちろん、アラームおよび転送用の電子メール通知の一部と して送信されるべき標準コメントを事前構成することが可能です。 これらのコメントを電子メール通知内に使用するには、その[コメン ト]パラメータが特定の[電子メールテンプレート]内に存在してい る必要があります。例えば、1つの「通信アラーム」をそれがトリ ガーされた時に誰かに電子メールするように設定している場合、そ のアラーム用に選択された事前構成済みコメントは、対象の[コメン ト]が「通信アラーム」用の電子メールテンプレート内に含まれてい る場合その対象の電子メールに含まれるようになるということです。 アラームテンプレート内で事前構成済みを利用可能であるか、または 1つのカスタム化アラームを設定する場合に利用可能となります。 事前構成済みコメントの作成の方法:

 [システム]|[コメント]から、骨[追加]をクリックしてくだ さい。



2 対象のテキストを含んでいるボックス内で、[新しいコメント]を クリックして、そのコメント入力して、[Enter]を押します。

事前構成済みコメントを使用する方法 (1 つのカスタム化通信ア

- ラーム内での例):
- 1 From [システム] | [ロガー]から、コメントを設定する対象のロガーを1つ強調表示して、[ロガー]をクリックしてから[ロガーアラーム設定]で [ロガー通信アラーム設定]を選択してください。

1.5-COH45 (08125353) (ホスト g府上): 勝重 アラームの	12	
<ul> <li>プラームを利却にする</li> <li>アラーム テンプレートを使用する:</li> <li>カスタム アラーム最近を使用する</li> <li>パラメーター全数 正し コメント</li> </ul>	83.8596	¥
きコード: アラーム メッセージ:	88.	×
フラームをアフティブ化する前に運転させる (Moner): 安白味前が必要です:	00.02	
		\$0 A+>2.5

- 2 [カスタム化アラーム設定の使用]を選択します。
- 3 その[コメント]タブ上で、1つのコメントを[事前構成済みコ メント]ドロップダウンリストから選択してください。ご使用 の各事前構成済みコメントが、対象の[コメント]ボックス内 で表示されるようになり、必要な場合にはそのテキストに追加 の変更を行うことが可能になります。
- 4 [保存]をクリックします。
- 5 [システム] | [電子メール] から、編集する対象の電子メール テン プレートを選択してください。この例では、[ロガー通信アラー ム]を用いています。
- 6 [電子メールテンプレート]ダイアログから、その[コメント]変数が存在していることを確実にするか、またはそれを選択するかしてください(それが現れるべき位置にカーソルを挿入してから、[マクロ]|[コメント]と選択してください)。[通信ア

ラームの設定]内で選択されたこの事前構成済みコメントは、 対象の電子メールメッセージ内に挿入されることとなります。

7 [保存]をクリックします。

事前構成済みコメントを削除する方法:

- 1 [システム] | [コメント] から。削除するコメントを強調表示させます。
- 2 渊 [削除] をクリックします。

## 第章:イベント

すべてのイベント - アラーム、データ ロガーからのデータの転送、 アラームの受信確認、システム構成の変更および一般的システム通 知など - これらはイベント タブ内の viewLinc のイベント ログ内 で追跡されています。

「イベント」内で追跡されたデータは、データ・ロガー内で追跡され たデータとは異なっています。viewLinc イベント ログは、対象の viewLinc システム内で発生しているイベントを追跡すると共に(1 つのロガーから1つの格納済みローカル ディレクトリへ正常な転 送の通知など)、そのデータロガーは自身で温度、相対湿度または 電圧の変化を追跡します。

viewLinc が継続的にイベント履歴を監視および格納することを確 実にするために、その viewLinc イベント ログが変更されている場 合にはイベント ログ検証アラームが通知します。イベント ログ検 証アラームについての詳細は、第章: アラーム をご参照ください。 何時何処で特定の問題が発生したかを特定するため、またはトラブ ルシューティングを必要とする 1 つの状態を診断するために、[イ ベント] タブを使用してイベントを分析します。 このセクションにおいての学習事項:

- イベントの表示
- イベントへのコメントの追加
- イベント ログの印刷
- .xls 形式へのイベント ログ データのエクスポートおよび保存

### イベントの表示

イベントは、ご使用のシステム上のデータ ロガーで発生しているす べてのシステム イベントのテキスト ベースでのリストである、1 つの「イベント ログ」上で表示されます。

イベントの表示方法:

- viewLinc から、[イベント]をクリックします。「イベント ロ グ」が現れ、各イベントの1つのリストを表示し、利用可能な 場合は、「イベントの詳細」からそのイベント リストの右側に 該当イベント上にコメントが表示されます。
- 2 日付および時刻セレクターを使用して、イベントを表示させたい時間間隔を選択してください。1 つの日付を入力するか(MM/DD/YYYY HH:MM の形式を使用)またはカレンダーを使用して1つの日付範囲を指定するかしてください。



- 3 日付および時刻セレクターの右側のボタンを使用し、各ボタンを 選択または選択解除してイベントの詳細の特定タイプを表示 するようにします。利用する結果をフィルターするために1つ のイベントタイプボタンを選択した後、 2 [更新]をクリック して対象のリストを更新します。より多くのボタンの数を選択 解除すると、表示されるリストはより短くなります。表示可能 な選択項目:
  - アラームイベント。特定の時間間隔の間にトリガーされた 各アラームのリスト。
  - 管理者イベント。ViewLincへのログインおよび新しいア ラームしきい値設定など、実行された管理者操作の1つの リスト。
  - 転送イベント。特定の時間間隔の間に実行されたロガー データ転送のリスト。
  - システム イベント。構成オプションへの変更のリスト、または viewLinc サーバーおよびデータ ロガー間でのあらゆる 失敗した通信の試行。

### イベントへのコメントの追加

つのイベントの発生理由の概略または1つのイベントや問題への 応答で実行された事項など、「イベントログ」にコメントを追加し たい場合が考えられます。

「イベント ログ」へ 1 つのコメントを追加する方法:

- 1 viewLinc  $hc_{1}$  ( $dv_{2}$ )  $bc_{1}$
- 2 そのコメントに追加する対象の行(イベント)を強調表示させて、「【コメントの追加】をクリックします。「イベントへのカスタム化コメントの追加」画面が現れます。

1XXH	デストロ2/15/2011をしている5スミス	

- 3 使用するコメントを入力してから、[保存]をクリックします。
- 4 つの特定イベントのついての1つのコメントを表示するには、 対象のコメントを含んでいる行を強調表示させて、その「イベントの詳細」エリア内の対象コメントを探します。

### イベント ログの印刷

イベント ログの印刷方法:

- 1 viewLinc から、[イベント]をクリックします。
- 2 印刷対象としたい日付および時刻を選択します。[日付/時刻] ボックス内に、日付および/または24時間表示で時刻を入力 するか、またはカレンダーアイコンをクリックして選択を実行 します。
- 3 日付および時刻セレクターの右側の各ボタンを使用して、「ア ラームイベント」、「管理イベント」、「転送イベント」および/ または「システムイベント」のいずれかを含めるか、含めない かを選択してください。
- 4 💐 [更新]をクリックします。
- 5 🎽 [印刷] をクリックします。

6 新しいブラウザー ウィンドウ内で、プリント用の「イベント ログ」レポートが開かれます。



7 [フリント] ダイアログ ホックスが目動的に開かれ、フリント パラメーターの設定を可能にして、「イベント ログ」が印刷さ れます。

### 「イベントログ」のエクスポート

viewLinc で後日の分析用に 1 つの保存済みの .XLS ファイル内に イベント ログ データをエクスポートすることが可能です。

イベント ログをエクスポートする方法:

- 1 viewLinc 内で、[イベント]をクリックし、エクスポート対象 としたい日付範囲を選択します。[日付/時刻]ボックス内に、 日付および/または 24 時間表示で時刻を入力するか、または カレンダー アイコンをクリックして選択を実行します。
- 2 日付および時刻セレクターの右側の各ボタンを使用して、「ア ラームイベント」、「管理イベント」、「転送イベント」および/ または「システムイベント」のいずれかを含めるか、含めない かを選択してください。
- 3 <>>2 [更新]をクリックします。
- 4 ■[エクスポート]をクリックします。「ファイルのダウンロード」ダイアログが開かれ、対象のイベント.xls ファイルを開くかまたは保存かを確認します。

## 第章:レポート

viewLinc を使用して、バイサラ ロガーにより収集された履歴デー タ上で時間基準でのデータの各変動を分析するグラフおよびレ ポートが作成可能です。

この章において、履歴データの意味とその使用法について学習します:

- 履歴データの分析
- グラフィカルおよびタブ形式での履歴データレポートの生成
- 新しいレポートおよびレポート テンプレートの作成
- レポートの削除

### 履歴データについて

バイサラ データ ロガーは、それらの内部に膨大なデータの量を格納 する能力を保有しています。データは、10 秒間毎に1 回から 24 時 間毎に1 回までの頻度でログされます。この頻度の設定には -- これ はサンプル時間間隔と呼ばれており -- バイサラ ベリテック ロガー については、『Spectrum ユーザー ガイド』または『vLog ユーザー ガイド』をご参照ください。300 シリーズ送信機用にサンプル時間 間隔を設定するには、「電子メール設定の構成」、ページ 61 をご参照 ください。

viewLinc により、対象ネットワーク上のロガーについてリアルタ イムでの監視が可能であり、時間軸にわたる諸条件のグラフでの変 化、または異なったロガー間で記録された各条件を比較することが 可能です。この分析は、[レポート]タブを使用して実行されます。

つのバイサラ ベリテック ロガーからの履歴データは、1 組のスケ ジュール上で1 つのローカル ディレクトリへ - viewLinc の [転送] タプを使用して - 毎日また毎週の頻度で、転送させることも可能で す。一旦、転送されると、データは、ご利用されるレポートでの必 要に応じてエクスポート用 (.xls への変換)用および印刷用に取得可 能となります。詳細については、第章:転送をご参照ください。

### 履歴データ レポートの生成

viewLinc は、データ読み取りまたはアラーム監視の統計(アラーム トリガーの頻度など)で簡単に傾向の表示を支援可能なグラフィカ ルレポートのセットを提供しています。

- アラーム」レポートは、時間軸にわたるアラームイベントの1つの概説を提供しています(イベントアラーム関連したイベントが一緒にグループ化され、1つの読み取り可能なフォーム内に提示されています。
- ・ 

   ・ テャネル履歴」レポートは、チャネル値の1つの詳細な履
   歴を提供しています(グラフィカルフォームおよびタブ形式
   フォームの両方で提示されます)。

#### アラーム履歴レポートの生成

「アラーム履歴レポート」生成の方法:

[レポート]タブ上の[アラームレポート]リスト内で、生成しようとするレポートを選択してください。



レポート パラメーターは、ご利用の画面右側上に現れます(ユー ザーは、それぞれが生成しているレポートの各レポート パラメー ターか、または所有者アクセス許可を供与されているレポートの みを閲覧できます)。

- 2 【全般】タブ上で、このレポートを変更または生成するためのア クセス許可を所有させたいユーザーを選択し、そのデフォルト オプション、【直近のイベント】、または特定の日付範囲を使用 してそのレポートに含ませたい期間を指定できます。1つの固 定データ範囲を選択された場合は、カレンダーを使用して開始 /終了日付を指定してください。
  - 注意: 管理者アクセスを所有されている場合、このレ ポートを変更または生成するアクセスを所有さ せたい対象のユーザーに「レポート所有者」を選 択することができます(ユーザーのリストを設 定するには、「ユーザーアカウントの作成」、ペー ジ 67 をご参照ください)。

Lett - H-OH # #: admin				
All CHIC	最も最近のイベント (自給または干燥レ)		ドート作成用)	
100 H (10)	1		21.76	
スケジュールされた	n#			
DARMALTI	K# 1 6.8.00	CALL.	3/viewLinc/Reports	
DAMAGUT	RFX-STREFERTS			
BILEMMY6:	2011-02-11	13	02:30	19
-	L		** 20	
レオートの表式	PDF (Adobe Acrobal Bascler 7	080.03		-

- 3 [一般] タブの「スケジュール済み生成」エリア内で、ご使用の レポートの形式 (PDF または Excel 用のタブ区切り)を選択 して自動的にこのレポートを生成し1つの特定のファイル場 所に保存するか、またはそのレポートを1つの電子メールア ドレス宛にまたは1つのアドレスのリスト(コンマを使用して 電子メール アドレスをコンマで区切られた)宛へ自動的に送 信可能です。いつそのレポートを生成したいか、またどのくら いの頻度で生成したいかをスケジュールすることも可能です。
  - 注意: 大サイズのレポート データのセットについて、 より少ない数のユーザーがこのシステムを利用 している時、すなわち営業時間後などに、レポー ト生成をスケジュールされることを推奨してお ります。
- 4 [レポート内容] タブ上で簡潔なレポート (アラーム毎に1 行を 割り当て) または詳細なレポート (すべてのアラーム事象につ)

いての詳細の表示:アクティブ化、通知、受信確認、その他) のいずれかを決定してください。

- 5 [レポート ソース データ] タブ上で、そのレポートのスコープを 定義してください。すべてのチャネルからのアラーム レポート の詳細を含ませるのには、[すべてのチャネル]を選択してくだ さい。特定のチャネルおよびゾーンを選択することも可能です:
  - a その [オプション]を選択して、[選択済みチャネルおよび ゾーン]を選択します。
  - b 1つのゾーン内で1つ以上のチャネルを選択される場合には、 その[ゾーン名](チェックボックス)を選択してください。
  - c 1 つのゾーン内で1 つの特定のチャネルを選択される場合 は、その[チャネルの説明](チェックボックス)を選択し てください。
  - d これらのステップをそのレポート上に含ませたいチャネル 毎に繰り返してください。すべての選択済みチャネルは 「選択済みゾーン」領域内に現れます。
- 6 [ページ レイアウト] タブ上で、ご使用のレポート表示オプ ションを定義してください:
  - a ページ ヘッダーおよび/またはページ フッターの各オプ ション:そのページ上に1つのヘッダーまたはフッターを 表示させたいページを選択してください。そのヘッダーま たはフッターを定義されるには、テキストをその「左側」、「中央部」または「右側」のフィールド内に入力してくだ さい。
  - b 印刷したい印刷用紙のサイズ、および方向を選択することも可能です。
- 7 📙 [保存] をクリックします。
- 8 そのレポートを手動で生成するには、[レポートの生成]から、
   [Excel へのエクスポート]または [PDF レポートの生成]を
   選択してください、

26	ポートをかはする・
*	Enni 1222/1->16
10	POF LIT-1-ESIZES

#### チャネル履歴レポートの生成

チャネル履歴レポートの生成の方法:

注意: viewLinc では、いかなるデフォルトのチャネル履 歴レポートも提供していません。代わりに、当初 に1つの「チャネル履歴レポート」を生成される と、そのレポートが自動的に保存されます。

- 1 [レポート]タブ上の[チャネル履歴レポート]リスト内で、生成 しようとするレポートを選択してください。そのレポートの詳 細がその画面の左側上に現れます。
- 2 [一般] タブ上で、このレポートに対してアクセス件を付与したい ユーザー(これはまだ「フルコントロール」を付与されていない 場合です)、および1つの特定データ範囲か、または直近のデー タを基にしたその範囲タイプデータを指定してください。
- 3 「スケジュール済み生成」エリア内で、ご使用のレポートの形式 (PDF または Excel 用のタブ区切り)を選択して自動的にこの レポートを生成し1つの特定のファイル場所に保存するか、ま たはそのレポートを1つの電子メール アドレス宛にまたは1 つのアドレスのリスト(コンマを使用して各電子メール アド レスをコンマで区切られた) 宛へ自動的に送信可能です。いつ そのレポートを生成したいか、またどのくらいの頻度で生成し たいかをスケジュールすることも可能です。
  - 注意: 大サイズのレポート データのセットについて、より 少ない数のユーザーがこのシステムを利用してい る時、すなわち営業時間後などに、レポート生成を スケジュールされることを推奨しております。
- 4 [レポート内容] タブ上で、「ロガー サンプル」(該当データ ロ ガーの内部メモリから取得済みのデータ ポイント)、「ロガー サン プル統計」(これは[統計設定]タブ内での[統計設定]の変更を可 能にする)、「リアルタイム サンプル」および/または「しきい 値」を含んでいる、データのタイプを識別してください。
- 5 「ロガーサンプル統計」を含めている場合は、[統計設定]タブを 使用してどのように使用するレポート上で情報が表示される か、およびそれに含めたいあらゆる統計的情報を定義してくだ さい。
  - a [統計設定]から、1 つのレポートの時間フレーム内で継続 的に統計を生成されたい場合には1 つの統計時間を選択し てください。たとえば、7 日間(1週間)の時間間隔を基準 にご利用のレポートが生成される場合で、統計データを毎 日表示されたい場合が考えられます。
  - b「包含される項目」のエリア内で、最大値、平均値。最小値、 標準偏差および平均動態温度 (MKT) を含んだ統計データ のタイプを選択してください:
    - その活性化エネルギーを指定したい場合は、「平均動態温度」を確認し、[KJ/mol]単位表示で活性化エネルギーを 指定してください。

- 6 [レポート ソース データ]タブ上で、そのレポートのスコープおよび色スペクトルを定義してください。すべてのチャネル上でレポートを実行するには、[すべてのチャネル]を選択してください。特定のチャネルおよびゾーンを選択することも可能です:
  - a その [オプション]を選択して、[選択済みチャネルおよび ゾーン]を選択します。
  - b つのゾーン内で1つ以上のチャネルを選択するには、その ゾーン名を選択してください。
  - c つのゾーン内で1つの特定のチャネルを選択される場合 は、そのチャネルの説明チェックボックスで選択してくだ さい。
  - d そのグラフに目次を追加するには、[マーカーの表示]を 選択します。
  - e 特定のチャネルのデータを強調表示する色を指定するには、そのチャネルを選択してから、[色]ドロップダウンリストから1つのオプションを選択します。[自動]を選択している場合、viewLincはそのデフォルト色スペクトルに従って色を選択します:



f そのチャネル ライン色が「自動」に設定されている場合、 viewLinc は色の組み込みパレットから次に利用可能な色を 割り当てます(この色スペクトルシーケンスについては、 ページ 103 をご参照ください)。これらをそのレポート上に 含ませたいチャネル毎に繰り返してください。すべての選 択済みチャネルは「選択済みゾーン」領域内に現れます。

- 7 [ページ レイアウト]タブを使用して、ヘッダー、フッター、用 紙サイズおよび印刷方向を定義してください。
  - a ヘッダーまたはフッターのオプションについては、すべての ページ上、最初のページ上のみ、最後のページ上のみ、また は最初および最後のページ上のいずれかを設定可能です。
  - b ご使用のヘッダーまたはフッターの内容を定義されるには、テキストをその「左側」、「中央部」または「右側」のフィールド内に入力してください。
  - c 印刷したい対象の用紙サイズ、およびその方向を選択する ことも可能です。
- 8 🗎 [保存] をクリックします。
- 9 そのレポートを手動で生成するには、「ひ」レポートの生成]を クリックしてください。

### 新しいレポートの作成

viewLinc は、デフォルトの基準に従って変更可能なデフォルト レ ポート テンプレートのセットを提供しています。ご利用の変更項目を その他のユーザーが使用するために 1 つの新しいレポート テンプ レートとして保存することも可能です。

拡張された変更を標準レポート テンプレートとしたい場合には、[ 新しい履歴レポート]または[新しいレポートの機能]を使用してく ださい。1 つの既存のレポート テンプレートに類似している新しい レポートを定義したい場合には、[レポートのクローン化]機能を使 用してください。

新しいアラーム履歴レポートまたはチャネル履歴レポートの作成 の方法:

- 1 [レポート]ツールバー内で、作成したいレポートのタイプのボ タンを選択してください。▲ 新しいアラーム レポート、 [4] [新 しい履歴レポート]、(または ]] [レポートのクローン化])を選 択してください。
- 2 それらのレポート パラメーターを希望するように表示される ように完成させてください。
- 3 そのレポートに新しい名前を割り当てるには (デフォルトでは 選択済みの各パラメーターを基準にした 1 つの名前が生成さ れます)、そのタイトルをクリックしてそのテキストを編集可 能にして、名前を入力してください。
- 4 🔚 [保存]をクリックします。

ご使用の新しいレポートが保存され、そのレポート リスト内にアル ファベット順で現れます。

## レポートの削除

使用されなくなったレポートの削除の方法:

- 1 [レポート]タブ上で、削除したいレポートを選択します。
- 2 ¥[削除]をクリックします。
- 3 その確認ダイアログで、[OK] をクリックします。

## 第章:転送

このセクションで解説する項目:

- 履歴データのバイサラ ベリテック ロガーからの転送
- スケジュール済みデータ転送の作成、編集、非アクティブ化および一時的無効化

### 転送および転送スケジュール

viewLinc 内でご使用のデータ ロガー履歴の表示が可能なことに加 えて、ワークシートまたはその他のデータ分析ツールでの表示およ び分析用にご使用の バイサラ ベリテック ロガー データの転送が 可能です。

設定済みのスケジュールに従ってバイサラ ベリテック ロガー データを転送できます。転送は事前にスケジュール化することが可 能であるため、対象の転送が実行される時に立ち合われる必要はあ りません。いかに頻繁にデータ転送をスケジュールされるかに関係 なく、対象ロガー内のデータは改変されず、無制限に記録されます (あるいは対象ロガーがそのメモリ容量を使いきるまで)。

ご利用のバイサラ ベリテック ロガー データのバックアップ目的用 の定期的な転送が推奨されています、一切データの上書きがされな いことを確実にしてください (詳細については、『vLog ユーザー ガ イド』の「ロガー データ記憶域容量」をご参照ください)。ロガー からの転送は、ロガー毎に1つのデータ ファイルを作成します。

注意: すべてのバイサラ ベリテック ロガーは、そのロ ガーが検出されたときに 1 つのデフォルトの転 送スケジュールを割り当てられています。この転 送は、有効化され、7日間の間隔でスケジュール されています。ご使用のロガーがこの間隔が完了 する前にその記憶域容量を使い切ってしまうよ うな場合には、データの損失を発生させないこと を確実にするためにこの間隔を調整することが 可能です。

#### 転送スケジュールの作成

転送スケジュールの作成方法:

- 1 [viewLinc] から、[転送]をクリックします。
- 2 🚽 [新しい転送]をクリックします。
- 3 「ロガー転送プロパティ」ウィンドウから。「全般」エリア内で、 [この転送を有効にする]をクリックします。新しい転送は、 デフォルトで無効化されています。
- 4 [ロガードロップダウン]リストから、その転送を設定したい対象のロガーを選択してください。

0.84		
この転送を有助にする		
0.11-1	COM45 (08121313)	20
モチメール通知の向て先:	COM53 (08121309)	
	Channel 11 (04082123)	
スケジュール	COM45 (08121313)	
8110 - EL 80:	7	
PR.80 E3-701	2011-02-23	(3)
98.80.49 RG:	13:28	¥
BLIK PE		
NEXE.961	C:\3.5.3(viewLinc\transfers	
フィールド 1:	80.49	*
フィールド 2	シリアル巻号	*
フィールド 3:	111121-2 C/1681	<b>v</b>
-		
REM READ XVIII		
Table		

- 5 転送が失敗した場合に通知を受信する電子メール アドレスを 入力してください。1 つの電子メール アドレス、コンマで区切 られた電子メールのリスト、または IT 管理者によりご利用の メール サーバー上で作成済みの配布リストを選択することが できます。
- 6 正しい各メール サーバー設定が、「電子メール設定の構成、」 ページ 61 にて設定されていることを確実にしてください。
- 7 「スケジュール」エリア内で、転送スケジュール間隔および開始日付および時刻を選択してください。この [開始時刻] は、15分の間隔のドロップダウン リストとなっています。たとえば、7日間毎の1つのデータ転送を開始時刻 2011-11-14午後 11:15 で設定することが可能です。
- 8 「転送先」エリア内で、保存される .spl ファイルの保存先を選 択してください (マップ済みドライブ パスは使用しないでく ださい)。サンプル ディレクトリ パスに含まれるもの: c:\logger\_files または \\<コンピュータ名 >\<転送先ディレク トリ名 >。その対象の viewLinc ホスト サーバー上の 1 つの ディレクトリの使用を推奨しております (例: c:\<転送先ディ レクトり名 >)。
  - 注意: データ転送中に、その対象先ディレクトリまたは 共有ディレクトリに保存するために有効なユー ザー名およびパスワードを要求するダイアログ が現れる場合もあります。また、viewLinc と共に インストールされた該当アカウント(すなわち、 この viewLinc Enterprise Server サービスを実 行している)が、対象の転送されるデータが到達 する該当ディレクトリに書き込むための十分な 各アクセス許可を所有していることを確実にし ておく必要があります。viewLinc との「サービ ス」についての詳細は「補遺: FAQ & トラブル シューティング、」ページ 93 をご参照ください。

- 9 ファイル名を構成することとなる各識別用フィールドの順番を 指定することで転送されるファイルのファイル名を選択して ください。.spl ファイル用のファイル名は、対象ロガーの説明、 そのシリアル番号、およびそのファイルが保存された日付と時 刻の組み合わせから作成されます。たとえば、「ロガー ID-08094523-2011-04-22 16-30-01.spl」となります。
- 10 この画面下部において、事前構成済みコメント、またはこの転送を関連付けしたい、その目的、各電子メール通知が送信されるべき受信者、およびその他の項目などあらゆる特定のコメントを入力してください。
- 11 定義されたようにこの転送が完了するのかを試験するには、 [即時転送]をクリックしてください。対象のデータは、指定されたその場所に転送されるはずです。
- 12 [保存]をクリックして1つのスケジュール済み転送用のこれらの設定を保存します。設定された各ロガー向けのスケジュール済み転送での情報を含んでいる行が、「転送」内に現れます。

#### 即時データ転送の実行

即時データ転送の方法:

- 「転送スケジュールの作成、」ページ 88 内でステップ 1 から 10 を実行(または 1 つの既存の転送を編集します)してから、[即 時転送]をクリックしてください。対象のデータは、指定された その場所に転送されるはずです。
- 2 [保存]をクリックしてそのスケジュール済み転送を保存するか、
   または[キャンセル]をクリックして終了します。

#### 転送スケジュールの編集

スケジュール済み転送の編集方法:

- 1 [viewLinc] から、[転送]をクリックします。
- 2 編集するスケジュール済み転送(複数)が含まれている行を選択します。
- 3 📝 [転送の編集] をクリックします。
- 4 「ロガー転送プロパティ」画面が現れます。必要に応じてこれ らの転送の詳細を編集します。
- 5 [保存]をクリックします。

#### 転送スケジュールの非アクティブ化

ロガーを非アクティブ化する場合にはあらゆるスケジュール済み 転送を非アクティブ化する必要があります。

スケジュール済み転送の非アクティブ化の方法:

- 1 viewLinc から、[転送]をクリックします。
- 2 非アクティブ化したいスケジュール済み転送が含まれている 行を選択します。
- 3 ¥[転送の非アクティブ化]をクリックします。
- 4 この非アクティブ化を確認する1つのダイアログが現れます。 [はい]をクリックします。

すべての非アクティブ化済み転送を表示するには、[非アクティブ 化済み転送の表示]をクリックします。灰色のテキストでご使用の リスト内に各非アクティブ化済みの転送が表示されます。

#### 転送スケジュールの一時的な無効化

つのバイサラ ベリテック ロガーを切り替えたい、またはご使用の 転送リスト内で 1 つの転送スケジュールを表示したくない場合に は、1 つの転送スケジュールを無効化してください。

スケジュール済み転送の一時的な無効化の方法:

- 1 viewLinc から、[転送]をクリックします。
- 2 編集するスケジュール済み転送が含まれている行を選択します。
- 3 『「転送の編集」をクリックします。
- 4 [ロガー転送プロパティ]画面から、[この転送の有効化]の選択を 解除します。
- 5 [保存]をクリックします。

# 補遺: FAQ & トラブルシューティング

このセクションは、よくある質問とその回答および viewLinc デバ イスおよび Net デバイス類または Digi デバイス類で一般的な問題 のトラブルシューティングのための情報が含まれています。 管理者の1員として、ご利用の PC 上で実行している viewLinc サービスの詳細を必要とされる場合も考えられます。このセクション には、viewLincの一部としてインストールされているファイルの 情報も含まれています。

質問: どのように viewLinc は機能するのですか?

回答: viewLinc 1 つの Windows サービスとして自動的に起動され、実行されています。そのサーバー viewLinc を起動される時に、 このサービスは自動的に開始されます。

このviewLinc Enterprise Server は、ロガーからのデータ収集、ス ケジュール済み転送の実行、アラームの監視、あらゆる関連操作の 実行、ユーザーの管理、およびシステム全般およびユーザー特定の 設定のコントロールを行っている1つのサービスです。

質問: Which HMT Transmitters can I use with viewLinc 3.6?

回答: Here is the list of supported 300 Series Transmitters:

HMT331、HMT332、HMT334、HMT335、HMT337、HMT338 DMT342、DMT334、DMT335、DMT336、DMT337、DMT338 MMT332、MMT337、MMT338

PTU301、PTU303、PTU307、PTU30T

質問:どのように viewLinc を停止またはオフにするのですか? 回答:以下のステップを完了させてください:

 ご利用の Windows PC 上で、[スタート] | [設定] | [コントロー ル パネル] | [管理ツール] | [サービス] の順に選択します。 2 すべての viewLinc サービスを停止させます: サービスのリストから、対象のサービスを右クリックしてから (viewLinc Enterprise Server または viewLinc Logger Host、viewLinc Watchdog、および viewLinc POS Display)、そのポップアップメニューから、[停止]を選択します。

viewLinc Enterprise Server 3.4	Name / Ternarial Services Therees Uniterruptible Power Supply Communities Plug and Play Device		Description Allows mult Provides u Manages a Provides s		Satus Started Started	Startup Type Manual Automatic Manual Manual	Log On As Local Syste Local Syste Local Serve Local Serve
Blog the service Restart the service							
Description Hwwdes waskung Client Applications access to data from nu/bple viewUng Lapper Houts	Sumilie Diverses	and the second second	- Anna	H H	Barted	Admetic	Local Syste
	Sickne State Cer SwebCert Windows Ando Windows Certipace Swindows Drage Act Swindows Instale Swindows Instale	1000		4 W	Sariad Started	Advante	Local Syster Local Serve
		Thurs.	- 1			Automatic Manual Automatic Manual Manual Automatic	Local Syste Local Syste Local Syste Local Syste Local Syste Local Syste Local Syste
		Restart	Ē				
		All Tarito		nn_	Raited		
		Refresh		hod n.s Sarted	Safed		
		Property	es l				
Extended (Standard /		Help					-

質問: viewLinc と共にインストールされているファイルは何ですか? 回答: viewLinc の一部としてインストールされているほとんどの ファイルは1つのディレクトリ内にインストールされています -デフォルトでは、"viewLinc" です。インストールの際に、管理者は デフォルトの場所および名前を変更することができます。

viewLinc の一部としてインストールされているファイルへのデフォ ルトでのパスは、C:\Program Files\Veriteq Instruments\viewLinc で す。データベースをご利用のネットワーク上の別の場所へ移動させ ることも可能です。

注意: viewLinc 3.4 または 3.5 から viewLinc 3.6 ヘ アップグレードされる場合、そのデフォルトの パスは、C:\Program Files\Veriteq Instruments\viewLinc 3.4 です。

この viewLinc インストラーは、1 つのプログラム グループ、 「Veriteq Instruments」を「スタート」メニュー内に作成します: C:\Documents and Settings\All Users\Start Menu\Programs\ Veriteq Instruments がそのパスです。インストールの際に、この viewLinc インストラーは viewLinc ログイン ページおよび「Veriteq Instruments」プログラム グループ内のデフォルトの viewLinc ヘ ルプ ホーム ページの両方にショートカットを配置します。 インストールの際に、この viewLinc インストラーは viewLinc ログ インページおよび viewLinc をインストールした管理者用のデフォ ルトの viewLinc ヘルプ ホーム ページの両方にショートカットを配 置します: C:\Documents and Settings\<administrator\_profile> \Start Menu\Programs\Veriteq Instruments がそのパスです。 viewLinc を実行しながら、対象のロガーから 1 つのユーザー指定 の場所にロガー データ (.spl ファイルにて)を転送することができ ます。これらの .spl ファイルは該当のユーザーによって指定された 1 つの場所に保存されます。1 つの 2-チャネル ロガーの一般的な .spl ファイルは、約 85KB です。

viewLinc は、本アプリケーション内で表示可能な「イベント ログ」 を作成します。このデータは、インストール ディレクトリ内に格納 されています。

質問: 使用しているネットワークはバイサラ ベリテック ロガーおよ び 300 シリーズ送信機の組み合わせを使用しています。 どのようにこ れらを迅速に追加できますか?

回答: 複数の送信機または複数のロガーおよび送信の組み合わせを 一度に追加するには、一行毎に1個のロガーまたは送信機の定義を 含む.txt ファイルを作成します。そのロガー クラスおよびロガー プロパティを識別するフィールドを追加してください(それぞれの フィールドをタブで区切ります)。.

vcom タイプ デバイス (バイサラ ベリテック ロガー)を設定する には、ご使用のロガーが接続されている COM ポート番号を定義し てください。例:

vcom com\_port=101

vcom com\_port=102

vcom com port=103

hmt330 タイプ デバイス (300 シリーズ送信機) を設定するには、 以下を定義してください:

- sample\_rate = そのロガーの内部サンプル レート
- timeout = 通信イベント用のタイムアウト
- connection = その接続のタイプ、COM ポートまたは TCP
- com\_port = ご使用のロガーが接続されている COM ポート番号 (COM ポート接続用の値はユーザー定義済み値です)
- ip\_address = ご使用のロガーの IP デバイス アドレス (TCP 接続)
- ip\_port = TCP ポート (TCP 接続用、ip\_address および ip\_port 用の値、これらはユーザー定義済み値です)

- TCP 接続および COM ポート接続用での共通値:
  - sample\_rate = 10 [秒]、90 [秒] (デフォルト)、12 [分]、 2 [時間]、12 [時間]、2 [日]、または12 [日]
- COM ポート接続用のオプションの値:
  - baud = 300、2400、4800、9600、19200 (デフォルト)、 57600、または115200
  - stopbits = 1 (デフォルト) または 2
  - databits = 7 または8(デフォルト)
  - parity = odd (奇数)、even (偶数) または none (なし) (デ フォルト)

#### 例:



質問: IP アドレス をどのようにロガーに追加するのですか? 回答: それはできませんが、IP アドレスをご使用の通信デバイスに割 り当てることになります。なぜなら、viewLinc は、COM ポートを 使用して通信しており、データ ロガーのイーサネット/IP アドレスを 使用した対象ネットワークへの接続にはネットワーク デバイスの使

用が必要となるからです。vNet デバイスまたは Digi デバイスは仮想 COM ポートを作成しデータ ロガーのイーサネットを使用しての viewLinc との通信を可能にしています。弊社は、ご使用のデバイス には動的 IP アドレスを使用されないで、1 つの予約済みまたは静的 IP アドレス (担当の IT 部門から指定された)のご使用を推奨してお ります。IP アドレスがドライバー構成の際に vNet デバイスまたは Digi デバイスに割り当てられます。インストールの指示については vNet デバイスまたは Digi デバイスについての『バイサラ ベリテッ ク クイック スタート ガイド』をご参照ください。vNet についての 詳細は、www.vaisala.com/veriteq にてご参照ください。Digi 製品に ついては、www.digi.com をご参照ください。

質問: どのように viewLinc がどのデバイスが (ロガーに接続済みで ある) 自身に割り当てられているのかを知ることができるのですか? 回答:それはできません。ご利用のネットワークデバイスはviewLinc に対して "割り当て" られるものではなく、viewLinc が COM ポート に接続されているロガーのためにそのネットワークを監視している からです。前述されているように、viewLinc ソフトウェアは、COM ポート経由で通信しています。『クイック スタート ガイド』に従って 1 つのネットワーク デバイスをインストールすることは、viewLinc によって管理される仮想 COM ポートを作成するということです。

v Net デバイスまたは Digi デバイスに割り当てられた COM ポート (仮想またはその他の場合)を見るには、「デバイス マネージャ」を 利用します:

- 1 「デバイス マネージャ」を開きます ([スタート] から [設定] | [コン トロール パネル] | [管理ツール] [ コンピュータの管理] と選択 します。「デバイス マネージャ」は左側に位置しています)。
- 2 一旦、「デバイス マネージャ」が開かれると、[ポート] (COM および LPT) を展開して COM ポートが接続されているデバ イスを表示させます。デフォルトでは、vNet デバイスは、 「CDL-VNET-P - モデル名」、Digi デバイスは、「Digi xxxxx (x は該当デバイスのシリアル番号に対応する) とそれぞれ命名さ れています。
- 3 詳細については、「デバイスマネージャ」内で、「マルチポート シリアルアダプター」以下で確認したいデバイスを右クリック してください。[プロパティ]を選択して、[詳細]タブを選択 し、[プロパティ]ボタンをクリックします。その左側に、この デバイスが使用している COM ポートのリストが表示される ようになります。

viewLinc によってコントロールされているロガーを表示するに は、[システム]タブを表示させます。

質問:使用するアラームシステムの一部として、B+B Electronics または Web リレー外部デジタル リレー 1/0 デバイスの使用を希望していま す。どのようにこれを実現できますか?

回答:電子メール アラームおよびポップアップ ウィンドウに追加 して、1 つのアラームしきい値を超過した時に、viewLinc サーバー 上でコマンドを実行することも可能です (連携して外部デバイスの トリガーを可能にする)。 これらを構成する方法:

[しきい値の作成]画面内で、[通知]タブ上で、[追加]をクリック してから、[コマンド通知の追加]をクリックします。適切な入力 ボックス内で DOS コマンドを入力してください。1つのアラーム がトリガーされる時に異なるコマンド、すなわち、「通知を繰り返 す」、「アラーム受信確認済み」または「アラーム条件の解除」を受 け入れ可能な異なるボックスが存在しています。

B+B Electronics 外部デジタル リレー I/O デバイスをご使用の場合、その viewLinc サーバー上の COM ポートにはデジタル リレー I/O デバイスも接続する必要があります。

Web リレー デバイスをご使用の場合、COM ポートは必要ありません ñ このデバイスは直接ローカル エリア ネットワークに接続できます。両方のデバイスは、B+B リレーまたは Web リレーの『クイック スタート マニュアル』内の指示に従って構成できます。

このデジタル リレー I/O デバイスも viewLinc サーバー上の COM ポートに接続する必要があります。

B+B 外部デジタル リレー I/O デバイスおよび その Python SwitchBbRelay スクリプト (viewLinc 3.6 の一部として自動的に インストール済み) をご使用の場合、その viewLinc 編集しきい値 画面で入力する特定の DOS コマンドは:

"C:\Program Files\Veriteq

Instruments\viewLinc\python\python" -m

viewLinc.scripts.SwitchBbRelay <リレー デバイスが接続さ れている COM ポートの番号> <オプション> オプションは以下の内の 1 つです:

1-デバイス1をオンにする

2-デバイス2をオンにする

3-デバイス1およびデバイス2を両方オンにする

0-両方のデバイスをオフにする。

質問: vNet/Digi デバイス類を使用して 使用するロガーを対象のネット ワークに接続しています。同一サブネット内で1つの場所から別の場 所へ使用するデバイスの移動を希望しています。実現させるには何を 行う必要がありますか?

回答: ご使用のデバイスに1つの予約済みまたは静的 IP アドレスを 使用されている場合(推奨に従って)、同一サブネット内で1つの 場所から別の場所へ使用するデバイスの移動には、以下のステップ に従ってください:
- 1 対象ロガー上のアラーム実行を一時停止させます。(アラーム実行を一時停止されない場合には、これらのステップを実行する際に通信アラームが発生する場合もあります)。
- 2 vNet デバイスまたは Digi デバイスを対象ネットワークから 切り離します(ロガーはまだ接続されたままです)。
  - 注意: その Digi RealPort ソフトウェアを対象の viewLinc サーバー コンピューターからアンイン ストールする必要はありません。実際、アンイ ンストールは、この Digi デバイスを対象ネット ワークに再接続する場合に障害を発生させます。
- 3 対象デバイスを別の場所へと移動させます。
- 4 対象デバイスを対象ネットワークに再度接続します。
- 5 アラーム実行を再開します。viewLinc は対象デバイスと再接続 されるべきであり、ロガーを確認することが可能になります。

質問: vNet/Digi デバイスを使用して 使用するロガーを対象のネット ワークに接続しています。 使用するデバイスの1つのサブネットから 別のサブネットへの移動を希望しています。 実現させるには何を行う 必要がありますか?

回答: ご使用の vNet デバイスまたは Digi デバイスに 1 つの予約済 みまたは静的 IP アドレスを使用されている場合 (推奨に従って)、1 つの場所から別のサブネット内の別の場所へ使用するデバイスの移 動には、いくつかの構成ステップが存在します:

- 1 アラーム実行の一時停止。(アラーム実行を一時停止されない場合には、これらのステップを実行する際に通信アラームが発生する場合もあります)。
- 2 そのデバイス ソフトウェアを対象の viewLinc サーバー コン ピューターからアンインストールする必要はありませんが、い くつかの構成の変更が必要となります:
  - 予約済み IP: 当初のサブセット用の DHCP スコープから予約 を削除して、対象の新しいサブネット用の DHCP スコープ内 に1つの新しい予約を作成します。ステップ6に進みます。
  - 静的 IP: vNet デバイス類または Digi デバイス類が以前その当初の場所で接続されている場合、vNet または Digi Web インターフェースにログインしてください。Web ブラウザーのアドレス バー内に、対象デバイスの IP アドレスを入力してください。(対象デバイスと同一のサブネット上にある場合、[デバイスの検出]を使用してご使用のデバイスの IP を見つけることが可能です。)

- そのログイン画面において、'ルート'ユーザーとしてロ グインしてパスワードを提供してください。そのデフォ ルトのパスワードは、'dbps'です。そのパスワードを変 更されていない場合は、このデフォルトのパスワードを 使用してください。
- [ナビゲーション]バーから、[ネットワーク]を選択します。「ネットワークの構成」画面において、その新しい Pアドレス、サブネットマスクおよびその新しいサブネット用のゲートウェイを入力します。[保存]をクリックします。
- 対象のデバイスを再起動させます。
- 3 対象デバイスをその新しい場所へと移動させます。
- 4 この新しいサブセット内で対象デバイスを検出させるために viewLinc を構成します。その viewLinc コンピューター上で、[ デバイス マネージャ]][マルチポート シリアル アダプター]と 選択して、ご使用のデバイスの行の上をクリックしてください。
- 5 「プロパティ」画面から、[詳細] | [プロパティ] | [ネットワーク] と選択します。
- 6 「ネットワーク」画面から、ネットワーク設定を入力して対象 デバイスの新しい IP アドレスを反映させます。[OK] をクリッ クします。
- 7 アラーム実行を再開します。viewLinc は対象デバイスと接続 されるべきであり、ロガーを確認することが可能になります。

viewLinc がこれらのロガーに接続できない場合、またはこのデバイスが上記のステップを実行後である場合には、これらのサブネットを接続しているルーター上の1つのポートがブロックされている可能性があります。以下を使用してください:

- この新しいサブネット内で対象デバイスが viewLinc コン ビューターからアクセス可能であることを確定してください。 viewLinc コンピューターのコマンド プロンプトから、ping <IP アドレス > を入力してください。この Ping コマンドに正 常な応答がある場合、この試験はサブセット間にルートが存在 していることを証明することになります。次のテキストに移動 します。
- 2 Digi デバイス類向け:
  - a コマンド プロンプト内で、telnet <IP アドレス> と入力し てください。ログイン プロンプトが確認できた場合、この 試験は対象デバイスが要求に応答可能であることを証明し ます。[Ctrl+C] を入力してこのログインを中断します。次 のテキストに移動します。

b コマンド プロンプト内で、telnet <IP アドレス > 771 と入 力してください。エラー メッセージを確認した場合は(そし てこれに先立つ試験が成功している場合)、ポート 771 がそ のローカル コンピューターおよびそのデバイス間でブロッ クされています。このポートは対象デバイスがバイサラ ソ フトウェアと使用可能であるためには解放させる必要があ ります。このポートはネットワーク デバイス(ルーター、 ファイアウォールまたはレイヤー3スイッチなど)、または PC ソフトウェア (Microsoft Windows ファイアウォール、 サード パーティー ファイアウォール、またはセキュリティ ソフトウェア スイートなど)によってブロックされている 可能性があります。該当ポートのブロックの解除。 正常な接続は、ご使用の画面上に現れる1 組の三(3)本の

正常な接続は、こ使用の画面工に現れる「組の三(3)本の 水平線 ( **三 三 三**…) により示されます。水平線の1 組は 10 秒毎に現れることにご留意ください。

質問:正しいユーザー名とパスワードを使用しているにもかかわらず viewLinc にログインできません。

サービスの「viewLinc Enterprise Server」が実行中であることを 確実にしてください。Windows の「コントロール パネル」内で、 [管理ツール]][サービス]ト選択してから、リスト内で「viewLinc Enterprise Server」を確認して右クリックして[開始]を選択し ます。(Enterprise Server が実行中でない場合は、このログイン画 面を表示することはできません)。

質問: viewLinc 内で通信アラームを受信し続けています。使用している ネットワークデバイスまたはロガーが応答を停止していることが疑 われます。どうしたらよいでしょうか?

- 1 ご使用のロガーが接続されていることを確実にしてください。
- 2 ご使用のネットワーク デバイスが電源に接続されており、また その電源に電源が投入されていることを確実にしてください。 Digi または vNet デバイス上では、そのデバイス前面上の電源 ライトが赤色で連続点灯していなければなりません。
- 3 対象デバイスが接続されており、対象ネットワークと通信して いることを確実にしてください。コマンドプロンプトで以下を 入力することで対象デバイスに Ping を試行してください: ping 〈対象デバイスの IP アドレス〉。

- 4 対象デバイスおよび対象ネットワーク間で通信がある場合は、 対象デバイスとそのロガーを接続しているバイサラ供給の ケーブルが適切に接続されていることを確認してください。そのケーブル上のライトが赤色で連続点灯している場合は、その ネットワーク デバイスまたはロガー ケーブルに問題が存在しています。ご使用のデバイスが RealPort を使用するために構成されていることを確実にしてください(詳細については、 www.vaisala.com/veriteq にてご参照ください)。これでもこの問題が解決しない場合は、ステップ6に進んでください。
- 5 そのケーブル上のライトが正常に動作しているが、まだ通信ア ラームを受信し続けている場合は、viewLinc コンピューター上 で「デバイス マネージャ」に移動して、対象デバイスがまだイン ストール済みになっていることを確実にしてください。「デバイ スマネージャ」内の「マルチポート シリアル アダプター」の下 で、構成を行ったアドレスを持つ対象デバイスのエントリーが 見つからなければなりません。これを見つけられない場合、別 の稼働しているロガーの接続を使用するか、または以下で記述 されるステップ2Bおよび CをvNet デバイスなどまたは Digi デバイスなどと併用する viewLinc 向け『クイック スタート ガ イド』からご参照ください。
- 6 そのケーブル上のライトが正常に動作していない場合、1つの グラフ作成アプリケーション (vLog または Spectrum)を開い て、そのケーブルが対象のロガーと通信可能であるかを確定し てください。グラフ作成アプリケーションと通信するロガーに 問題がある場合は、そのデバイスまたはロガーケーブルが正常 に機能していない可能性があります。そのロガーを1つの新し いデバイスに接続するか、または USB を使用してコンピュー ターに接続することを試行して、vLog または Spectrum 内で それに接続可能であるかを確認してください。

質問:viewLinc内にて、1つのネットワークの場所へロガー ファイルを 転送しようとしていますが、機能していません。どうしたらよいで しょうか?

回答:最初に、対象ネットワーク ディレクトリに対して完全ネット ワーク パスを使用しており (例: \\ComputerName\etc.)、マップ 済みドライブ レターではないことを確実にしてください。また、 viewLinc を実行中のアカウントが対象のロガー ファイルを転送し ようとしているフォルダへの書き込みアクセス許可を所有してい ることを確実にしてください。viewLinc を実行しているアカウン トはインスールの際に設定されたものです。本ガイドの第1章内の viewLinc のインストールについての情報をご参照ください。 質問: viewLinc 内で新しいしきい値およびロガーの説明などのいくつ かの変更を行いましたが、これらが表示されません。何がいけないの ですか?

回答: チャネル情報は、viewLinc 内で設定された更新レートにより アップデートおよび更新されます。viewLinc 内で[更新] ボタンを クリックするか、viewLinc が使用する更新レートを決定して、そ の割り当て済み時間まで待機してください。

質問: どのように viewLinc はレポート用に色を選択するのですか? 回答: チャネル ライン色が「自動」に設定されている場合、viewLinc は色の組み込みのパレットから次に利用可能な色を割り当てます、 色は以下の順序/シーケンスで選択されます:

a 黒色(0,0,0) **b** 赤色 (255, 0, 0) **c** 緑色 (0, 128, 0) d 橙色 (255, 165, 0) e 青色 (0, 0, 255) f 黄色 (255, 255, 0) g 紫色 (128, 0, 128) h 茶色 (150, 75, 0) i 灰色 (128, 128, 128) **i** 栗色 (128, 0, 0) k 黄緑色 (0, 255, 0) | トマト色 (255, 99, 71) m 空色 (30, 127, 255) n こはく色 (255, 204, 0) o ビザンチン色 (112, 41, 99) **p** ブロンズ色 (205, 127, 50) **q** 銀色 (192, 192, 192) r 真紅色 (220, 20, 60) s エメラルド色(80,200,120) t さんご色 (255, 127, 80) u 深いスカイブルー (0,191,255) v エクリュ色 (205, 178, 128) w エッグプラント色 (97,64,81) x バフ色 (240, 220, 130)

これらの問題でのさらなる支援については、バイサラカナダ、 +1-866-861-3388 にお電話していただくか、または vaisalasupport@veriteq.com 宛までご連絡お願いいたします。 索引

「マイ チャネル」21 **Numerics** 1つのアラームの受信確認 27, 50 1つのレポートのクローン化 85 300 シリーズ送信機 93 IP アドレス 56 出力の数 20 追加 55 インストール 7 ロガーも参照のこと 5 B

B+B Elec デジタル リレー デバイス 97

## С

COMポート 表示 97

## D

Digi デバイス 移動先場所 98, 99 デバイスと併用した viewLinc イ ンストール 10 - 14 トラブルシューティング 96, 98, 99 Diqi デバイス類 RealPort ドライバーのインス トール 11

#### F

Excel レポート 81, 82, 83 F

## Firefox サポートされるバージョン 5 Н

HTTP サーバー ポート 14

## L

Internet Explorer 設定 23 サポートされるバージョン 5 IP アドレス 300 シリーズ送信機 56

#### Μ

Microsoft Excel viewLinc イベント ログおよび 78 ログのエクスポート先 78 Mozilla Firefox サポートされるバージョン 5 Ρ PDF レポート 81, 82, 83

# S

Spectrum インストール 12

## U

USB ポート 4 デバイスと併用した viewLinc イ ンストール 11 - 12

### V

viewLinc 以前のバージョンからのアップ グレード 14 併用でインストールされるファ イル 94 インストール 3, 7 - 14 Digi デバイスとの使用 10 - 14 USB との使用 4, 11 - 12 vNet デバイスとの使用 8 シリアル ポートとの使用 4, 12 - 14

オフにする 93 サーバー要件 5 サービス 93 サポートされる送信機 93 サポートするブラウザー 5 システムの概説 2 セキュリティ オプション 16, 70 チャネル 「マイチャネル」内での表示 16, 20 ログイン 15 vLog インストール 12 vNet デバイス RealPort ドライバーのインス トール 9 移動先場所 98, 99 検出 9 トラブルシューティング 96, 98, 99

#### W

Web リレー デバイス 97 Windows サービス 93 X xls ファイル 78 Z 以前のバージョンからのアップグ レード 14 印刷 イベント ログ 77 華氏、温度の表示単位 70 外部リレー デバイス 97 各ロガーのタイプ 5 管理者向けロード マップ 17 技術サポート vi, 18 検出

vNet デバイス 9 バイサラ ベリテック ロガー 54 ロガー 54 検証アラーム 定義済み 34、35 校正アラーム 35 構成アラーム 定義済み 35 再アクティブ化 ユーザー 69 最小值 83 最大值 83 作成 ゾーン 28 ユーザー アカウント 67 レポート 85 削除 レポート 86 事前構成済みコメント 41 出力の数 20 出力の数、「チャネル」をご参照く ださい 20 状態バー、定義済み 22 色 レポート用に選択 84 色コード アラーム用に選択する 37 色コードを使用する アラーム用 37 色の使用 レポート用 84 摂氏、温度の表示単位 70 設定 アラーム 通信 45 しきい値 42 ロガー 49 アラーム テンプレート

色コード 37 しきい値アラーム 42 ブラウザー設定 23 ユーザー セキュリティおよび 各アクセス許可 68 設定。システム設定を参照 送信機 出力の数 20 追加 55 インストール 7 サポートされている 93 ロガーも参照のこと 5 測定単位 70 単位、温度 70 単位の優先項目 チャネル 61 追加 複数のロガー 95 通信アラーム 一時停止 51 色コード 37 設定 45 定義済み 34 電子メール通知の追加 38 編集 47 無効化 48 コメントの追加先 41 テンプレート 36 トラブルシューティング 101 ポップアップ通知の追加 37 诵知 校正 35 複数 36 転送スケジュール 88 非アクティブ化 91 編集 90 無効化 91 電子メール 設定 61

テンプレート 63 マクロ 64 電子メール サーバー設定 61 電子メール通知 35、65 アラーム内 38 統計時間間隔 83 統計設定 83 特権、ユーザー 64 読み取り グラフ ラージ チャネル ビュー内 25 しきい値 26 チャネル値 25 背景色 37 非アクティブ化 転送スケジュール 91 しきい値アラーム 45 ゾーン 31 ロガー 58 非アクティブ化された転送の表示 91 標準偏差 83 表示 COM ポート 97 アクティブなアラーム 26 イベントのコメント 77 **チャネル** 23 複数のアラーム通知 39 平均值 83 平均動態温度 (MKT) 83 編集 通信アラーム 47 電子メール テンプレート 63 しきい値アラーム 44 ゾーン 28 ロガー アラーム 49 ロガー エイリアス 59 ロガーおよびチャネル プロパ

無効化 通信アラーム 48 しきい値アラーム 44 ロガー アラーム 50 履歴データ 2, 79, 87 表示 23 目的 80 あ アカウント ユーザー オプション 68 ユーザー用に作成 67 アクセス許可、ユーザー 64, 68 アクティブなアラーム 表示 26 アプリケーション アラーム トリガー時の実行 40 アプリケーションまたはデバイス の起動 36 アラーム 33, 52 一時停止 51 検証 34 受信確認 27, 50 色コード 37 通信 34, 45 一時停止 51 通知 65 電子メール通知 38 編集 47 無効化 48 コマンド 40 コメント 41 トラブルシューティング イベント 78 101 ポップアップ通知 37 イベント ログ 電子メール設定 61 電子メール通知 35 電子メール内容の変更 63 複数の通知 36, 39

ティの編集 59

アクティブ 表示 26 コマンド 40 しきい値 34 一時停止 51 外部リレー デバイス 97 設定 42 電子メール通知 38, 65 非アクティブ化 45 複数の通知 39 編集 44 無効化 44 コマンドの実行 97 コメント 41 ポップアップ通知 37 しきい値条件テンプレート 41 ツリー階層 36 テンプレート 36 ユーザー通知 65 ロガー 35、49 構成 35 電子メール通知 38 無効化 50 コメント 41 ロガー校正アラーム 定義済み 35 アラーム トリガー アプリケーションの起動また は操作 36 アラームの一時停止 51 アラームの実行状態、定義済み 22 11 コメントの表示 77 印刷 77 表示 76 保存 78 エクスポート 78

コメントの追加先 77 イベント・ログ 75 インジケータ、色 37 インストール 300 シリーズ送信機 7 Digi RealPort ドライバー 11 Spectrum 12 viewLinc 7 - 14 vLog 12 vNet RealPort ドライバーのイン ストール 9 各オプション 3 管理者向けロード マップ 17 ホスト 14 え エイリアス、設定 69 エクスポート イベントログ 78 お オフにする viewLinc 93 か カスタマー サポート vi カラー パレット 103 < グラフ 読み取り 24 表示 23 コマンド VLからの実行 97 アラーム 40 コマンドの実行 アラーム用 40 コメント 事前構成済み 41 表示 77

イベント ログへの追加 77 コンタクト スケジュール 65 さ サービス 93 サブネット トラブルシューティング 100 サポート、技術 vi サポートされるブラウザ 5 サンプル カウント 83 し しきい値、読み取り 26 しきい値アラーム 一時停止 51 色コード 37 設定 42 定義済み 34 電子メール通知の追加 38 非アクティブ化 45 複数の通知 39 編集 44 無効化 44 アラーム実行の再開 51 コメントの追加先 41 テンプレート 36, 41 ポップアップ通知の追加 37 しきい値のサマリー、定義済み 22 システム設定 53-70 システム要件 5 システムの概説、viewLinc 2 シリアル ポート 4 デバイスと併用した viewLinc イ ンストール 12 - 14 す スクリプト、VL からの実行 97 スケジュール コンタクト 65 ユーザー用に作成 65 スケジュール済みデータ転送

アラームの追加 41

非アクティブ化 91 編集 90 無効化 91 スケジュール化 88 せ セキュリティ ユーザー 68 レベル 64 セッション有効期限 16, 70 セット アップ ロードマップ 17 そ ゾーン 28 - 31 作成 28 非アクティブ化 31 表示 21 編集 28 た タイムスタンプ 22 タブバー 21 ち チャネル 19 - 32 「マイ チャネル」内での表示 16, 20 開く 23 出力の数 20 エイリアス 69 グラフの読み取り 25 プロパティ 60 プロパティの編集 60 ユニット優先項目の変更 61 チャネル番号 22 チャネルの説明 定義済み 22 編集 60 チャネルの値

定義済み 22 読み取り 25  $\supset$ ツリー化済みアラーム通知 39 τ データ転送 即時転送 90 スケジュール済み転送 88 データの転送 即時 88, 90 非アクティブ化された転送の 表示 91 デバイス、外部リレー 97 テンプレート 作成 36 編集 63 マクロの使用 64 と ドライバー RealPort 9, 11 USB ケーブル 12 トラブルシューティング 93‐104 サブネット 100 は ハードウェア要件 5 バイサラ ベリテック ロガー 追加 55 パスワード セッション有効期限後の再確 認 16、70 ī٤١ ファイル viewLinc と併用でのインストー ル 94 ブラウザー

サポートされている 5  $\overline{}$ ヘルプ 18 技術サポート vi ヘルプの参照 vi E ポート HTTP サーバー 14 ホスト、インストール 14 ポップアップ アラーム用 35 ま マクロ 電子メールテンプレート内の使 用 64 Ø ユーザー 再アクティブ化 69 アクセス オプション 68 コンタクト スケジュール 65 セキュリティ レベル 64 ユーザー アカウント 作成 67 編集 69 アクセス許可 68 セキュリティ 68 ログイン 15 ユーザー セキュリティ 68 ユニットの優先項目のクリア 61 6 ラージ チャネル ビュー 閉じる 24 グラフの読み取り 24 ラージ チャネル ビューを開く 23 ラージ チャネル ビューを閉じる

24 1) リレー デバイス 97 れ レポート 79, 86 Excel 81, 82, 83 PDF 81, 82, 83 作成 85 削除 86 色 84 生成 80, 82 クローン化 85 タイプ 80 3 ロード マップ 17 ロガー 検出 54 検証アラーム 35 校正アラーム 35 構成アラーム 35 切り替え 56 説明 59, 69 追加 54 バイサラ ベリテック ロ ガー 55 定義ファイル 95 転送 90 トラブルシューティング 102 転送スケジュール 88 非アクティブ化 58 複数の追加 95 アラーム 49 設定 49 編集 49 テンプレート 36 エイリアス 59, 69

エイリアスの編集 59 チャネルの説明 60 プロパティの編集 59 ロガー アラーム 色コード 37 電子メール通知の追加 38 コメントの追加先 41 ポップアップ通知の追加 37 ロガー検証アラーム 定義済み 35 ロガー構成アラーム 定義済み 35 ロガー用の定義ファイル 95 ロガーの交換 56 ロガーの切り替え 56 ログ、イベント。イベント ログを 参照。 ログイン画面 15 わ

ワークシート、イベント ログ デー 夕の格納場所 78